講義科目名称	英語コミュニケーション	研究 II	副題	Communicative/Pedagogical Grammar of English				
英文科目名称	English Communication	n Studies II						
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分					
前期	1 · 2	2単位	必修選択					
2当教員				-				
経 晃彦								
語コミュニケーショ	ン 講義]					
村ファイル								
	宇孜奴除のもる教員学に	トス将業利用	 1					
	実務経験のある教員等に ■実務経験のある教員に							
	□実務家を招へいして実							
	実務経験・授業での活用	、招へいする実務家等						
	授業で使用する言語							
授業種類	□日本語							
	■英語							
	□その他							
	アクティブラーニング							
	■アクティブラーニング							
	1			けな形式や意味、文脈における意味や用法などの観点から理解を深め、その知識をどのように指導に生 1を基に教員と受講者でディスカッションを行ったりすることにより、内容をより深く理解していく。				
受業の内容 (概要)				でを受ける。 でつまづきがちな英文法のポイントとそれをどのように指導するのがよいのかなどについても、教員・				
				教員」による、実践的な方法による授業である。)				
				特に問題となる項目の深い知識を得るとともに、その知識を指導に応用する力を身につけることを目				
受業の目的	i			"ィスカッションを通して、知識の深化および実践における問題点の発見とその解決策の検討を進めて 5ことも目的とする。この授業は、国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に寄与す				
	a.							
到達目標	・英語コミュニケーショ	ンの土台となる英文法につい	て、基本的な形式や意味、文	脈における意味や用法に関するより深い知識と、指導への応用力を身につけている。				
7ÆL19K	・英語でのプレゼンテー	ションやディスカッションを	通してこれらを達成すること	により、英語での発表力や論理的思考、問題発見・解決能力を身につけている。				
	第1回 Introduct							
	1			語学習経験や英語教授経験も振り返りながら、学習者としてどのような問題の理解・習得が難しいか またけ多方向に行われる討論を伴う授業)				
	<u> </u>	受講者相互で、また教員も含めて議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第2回 Chapter 2: Articles Part 1						
	記詞の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問							
	点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第3回 Chapter 2: Articles Part 2 記詞の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論で							
	「短刺の又脈にありる息味や用法に Jいく支端上が J レゼンテーションを行い、 それを基に教員・支端上でディスカッション 9 ることにより理解を深める。また、指導法に J いくも議論							
	第4回 Chapter 3: Tense and Aspect Part 1							
	時制と相の基本的な形式や意味について受講生がブレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい。							
	問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第5回 Chapter 3: Tense and Aspect Part 2							
			プレゼンテーションを行い、	それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても				
		論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)						
	第6回 Chapter 4: Modals Part 1 法助動詞の基本的な形式や意味について受講生がブレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい							
	「広切動詞の基本的な形式と意味について支誦主がフレビンデーションを行い、てれて基に教育・支誦主でディスカッションすることにより理解を求める。また、子首有かつまつさいすい。 問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第7回 Chapter 4: Modals Part 2							
	法助動詞の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法について							
	論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第8回 Chapter 5: Conditionals Part 1 条件文の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきや							
受業計画	条件Xの基本的は形式(や意味について支端主がプレビンデーションを行い、それを基に教員・支端主にディスがッションすることにより理解を深める。また、子首省がつまりさい 題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第9回 Chapter 5: Conditionals Part 2							
	i	味や用法について受講生がブ る授業、双方向または多方向に		たれを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても譲				
		5: Prepositions and Particles						
	前置詞と不変化詞の基本	的な形式や意味、文脈におけ	る意味や用法について受講生	がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深				
			法についても議論する。(実	務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 				
		7: Indirect Objects 式や意味、文脈における意味	や用法について受講生がプレ	ゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。				
	<u>I</u>			員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)				
	第12回 Chapter 8	3: Infinitives and Gerunds						
				「ブレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深め 務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)				
	<u> </u>	: フさいりい同起点こその指導 D: Relative Clauses	/ムに ノい く ひ 武	いかなない いっぱく スペン ごういん いっぱい しょう こうしょう はんしょう はんしゃく はんしょう はんしゃく はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしんしん はんしんしん はんしんしん はんしんしんしん はんしんしんしんし				
			用法について受講生がプレセ	ンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。ま				
				員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)				
		10: Direct and Indirect Spee 木的な形式や實味 文脈にお		生がブレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を				
				はエアプレビンテーションを打い、それを基に教員・支誦主(ディスカッションすることにより理解を 実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)				
	第15回 Presentat							
	授業で扱った内容やそれ	と関連する内容で特に関心が	あるトピックについて、受講					
	:			末課題として提出する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)				
	Yule, George. 1998 F	plaining English Grammar .	Oxford University Press (ISBN: 9780194371728)				
テキスト	,	. Jg Jraninar .	(
テキスト購入方法	各自で購入する。							
	授業中に指示する。							
参考文献	ス本・ここはハック。							

成績評価の方法	プレゼンテーション・ディスカッション:50% 、学期末レポート:50%
教員への連絡方法	初回の授業で提示するメールアドレスによる。
履修上の注意	授業は英語で行う。
将举外学修情報 (系習復習)	事前学習:テキストの指定範囲を読み、要点や疑問点を整理しておく。担当者はプレゼンテーションの準備をする。 事後学習:テキストの指定範囲やプレゼンテーション・ディスカッションの内容を復習する。 1学期の授業外学修時間:合計30時間(1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習)
学生へのメッセージ	プレゼンテーションの担当者以外もテキストの指定範囲を読んできているごとが前提となるので、必ず予習をしてくること。

謹盖利日夕称	苗語コミューケーミ・コト・河空	ш	可疑	Pragmatics for English Education and Communication				
講義科目名称 英文科目名称	英語コミュニケーション研究 English Communication Stu		副題	Pragmatics for English Education and Communication				
AA1111111	English communication sta	uico m						
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	· 				
後期	1 · 2	2単位	必修選択					
担当教員 吉村 敬子								
二个 双丁								
英語コミュニケーショ	ン 講義・演習]					
添付ファイル			<u>-</u> j					
	実務経験のある教員等による □実務経験のある教員による		 					
	□実務家を招へいして実施す							
	実務経験・授業での活用、招							
授業種類	授業で使用する言語							
	□日本語							
	□その他							
	アクティブラーニング							
	■アクティブラーニング要素		<u>-</u> <u>-</u> 1					
				tion(英語教育と英語コミュニケーションの語用論)にあるように、このコースでは、円滑なコミュニケー				
授業の内容 (概要)				ついて、「語用論」(pragmatics)の概念や理論を学び、どのようにそれらを英語教育やコミュニケーショ 読み書きも全て英語で行う。授業形式としては、事前に予習してきた語用論の概念などを授業内で確認				
XXVIII (MX)	ł			方向に討論する時間を多く設ける。それにより、語用論の概念をより深く理解し、実際の教育や学習への				
	活用法について、またそれら	こおいての課題を発見したり)、どのように解決できる	かなどのアイディアを共有し、実践的な活用に向けて考える。(双方向または多方向に行われる討論を伴う				
	1			その上で、それらがどのように英語コミュニケーションや英語教育・英語学習に活用できるのか、また現				
授業の目的	i i			けて考える力を養うことである。語用論の基礎としては、発話行為、ポライトネス理論、会話の推意				
	シー1) とDP3の達成に関与	-	L表現(routine formulae	e)、などについて理解を深める。このコースは、国際コミュニケーション研究科のDP1(ディプロマポリ				
**************************************			月論の基本的な概念を具体	例を使って説明することができる。その語用論の理解を、自身の英語学習や英語教育においてどのように				
到達目標 	活用できるかを考え、その中	でどのような課題があるのた	かを見つけ(課題発見能力)、その解決に向けて具体的に活用案を考える力を身につける。				
	第1回 授業の概要、自							
	l			者の自己紹介を通して、これまでの自身の英語学習あるいは教育現場での経験、言語学や語用論に対して				
	の認識・知識、授業で学びたいことなどを共有する。テキストの第6章から10章から学びたいトピックを2つ選ぶ。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第2回 語用論能力について(第1章、ほか別途資料) 語用論と統語論、意味論の関係、linguistic competence (言語能力) とpragmatic competence (語用論能力) の違いについて学び、実際の英語学習や教育現場での経験から、何をどのよ							
				competence (紹介画版の) の違いについてする、英原の英語子首で教育の場合の症状がら、何をこのない。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)				
	第3回 言語教育と語用							
	語用論をどのように言語学習や言語教育に活かすことができるのかについて学び、受講者間、また教員を含めたディスカッションにより議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴							
	う授業)							
	第4回 発話行為とその種類、間接発話行為 (第3章)							
	Speech actとその種類、間接発話行為について学び、その英語学習・教育への応用について議論する。人が言語表現を使ってどのような行為を行うのか、様々な表現があることを知り、その適切さについても触れながら、受講者同士でこれらについてどのように学んだか・教えているかを話し合い、課題などについても議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授							
	の適切さについても飛れなから、交媾有向士でごれらについてどのように子んだか・教えているかを結び合い、課題などについても議論する。(双方向まだは多方向に行われる討論を伴う授 第5回 発話行為と英語学習・英語教育 (第3章特に後半)							
	乗5回 発話行為と央語学習・央語教育 (弟3年特に後年) 発話行為について、その英語学習・英語教育への導入について考え、受講生が実際に授業で活用する具体例をまとめ、授業で共有する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意見を言い合							
	光論が見らしていて、その失語子首・失語教育への導入にしたいて考え、支護主が失原に改業で治用する共体的でまとめ、技業で共有する。支護主が自分の業を共有し、の互いに思えて言い古い、教員も含めその有効性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第6回 協調の原理と会話の推意 (第4章)							
i				うに会話の推意が出てくるのか具体例を通して理解する。受講者同士で、これらについてどのように学ん				
	だか・教えているかを話し合い議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
i	第7回 会話の推意と英語学習・英語教育 (第4章特に後半) 会話の推意や協調性の原理について、その英語学習・英語教育への導入について考え、受講生が実際に授業で活用する具体例をまとめ、授業で紹介する。受講生が自らの葉を共有し、お互							
ļ	会話の推意や協調性の原理について、その英語学習・英語教育への導入について考え、受講生が実際に授業で活用する具体例をまとめ、授業で紹介する。受講生が目らの案を共有し、お互いに意見を言い合い、教員も含めその有効性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
į	第8回 学生発表 1(課題レポート1)							
授業計画	プログラス (A MAGO/N) 1-17 ここまで学んだことから、自らの経験において語用論能力をどのように学んだか(教えているか)、もしくは学んでいないか(教えていないか)について具体例を挙げレポートにまとめ、							
	授業で発表する。(それぞれの発表後に、Q&Aも含め、情報共有・議論を行う)							
	第9回 ポライトネス (第5章)							
	İ			習や教育に活用できるのかを議論する。特に、現在はポライトネスについてはどのような学習や教育が行				
				する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 				
		と英語学習・英語教育(第55 英語学習・英語教育への道)		実際に授業で活用する具体例をまとめ、授業で紹介する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意見を言				
	い合い、教員も含めその有効							
		nctional Sentence Perspec						
	文やことばの情報構造につい	て考えるFunctional Sentec	e Perspectiveの見方や概	:念に親しみ、それらをどのように英語学習や英語教育に活かせるかについて議論する。特に、現在はこれ				
				者の経験について共有し、その課題などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授				
	<u> </u>	・英語教育(第6章の後半)						
	FSPについて、その英語学習 を言い合い、教員も含めその			用できる具体的な学習法やレッスン内容を、授業内で紹介する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意り こ行われる討論を伴う授業)				
	<u></u>							
		見点からの談話分析 Intera を考慮して談話(コミュニク		(第8草) Iteractional sociolinguisticsの概念などに親しみ、それらをどのように英語学習や英語教育に活かせるかに				
				iteractional sociolinguisticsの元となった。というとこのように大品子自じ大品教育に活かといかに われているかについて、受講者の経験について共有し、その課題などについて議論する。(双方向または多				
		Sociolinguistics と英語学習						
				英語教育へ導入できるか考え、受講生が実際に活用できる具体的な学習法やレッスン内容を、授業内で紹介				
			い、教員も含めその有効	性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)				
		果題レポート2)	加強も語中ながより、一	ウにつけてこうで、細筋しい。アルフトはドフボのナツは、いばった 1200年 1 ショストモ200ナー・・・				
	ł			身につけるうえで、課題となっていると感じる事例を挙げ、なぜそれが問題となるのかを説明する。ま :口頭で発表する。(それぞれの発表後に、Q&Aも含め、情報共有・議論を行う)				
r				に関で発表する。 (それぞれの発表像に、Q&Aも含め、情報共有・議論を行う) and SLA. 2nd ed. Wiley-Blackwell. ISBN: 978-1119554257				
テキスト		, agmades and its	, , ,					
	夕白曜3 /4	1 ਗ ਲ ।						
	各自購入(Amazonなどで購入	へ山肥)						
テキスト購入方法	İ							

参考文献	Cohen, Andrews. (2018). Learning Pragmatics from Native and Nonnative Language Teachers. (ISBN: 978-1783099917) Ishihara, N. & Cohen, A. (2021). Teaching and Learning Pragmatics: Where Language and Culture Meet. 2nd ed. Routledge. (ISBN: 978-0367767082) Rover, Carsten. (2021). Teaching and Testing Second Language Pragmatics and Interaction: A Practical Guide. Routledge. (ISBN: 978-0367203030) Yule, G. (1996) Pragmatics. Oxford University Press.
成績評価の方法	予習・復習(discussion reflection含む)10%、具体的な活用例の紹介ブレゼンテーションとディスカッション20%、課題レポート(2つ)50%、学生発表(2回)20%
教員への連絡方法	授業の前後、メール
履修上の注意	授業は全て(続み書きも発表も)英語で実施する。
	授業前は、指定されたテキストの箇所を必ず読み、指定されたdiscussion reflectionに取り組む。また、紹介プレゼンテーションや発表がある場合は、準備をしっかり行う。授業後は、学ん だことを復習し、内容の見直しをする。1学期の授業外学修時間は合計30時間であり、1回の授業にあたり平均約2時間の予習・復習時間が求められる。
学生へのメッセージ	語用論の基礎を把握したいという方、また、それを英語学習や英語教育へ応用したいという方の履修を勧める。

講義科目名称	英語コミュー	ケーション研究	TV	副題	Communicative English Pronunciation			
英文科目名称			m),25	Communicative English Frontal addition				
				∃				
開講期間		配当年	単位数	科目必選区分				
後期		1 · 2	2単位	必修選択				
担当教員 小笠原 奈保美		<u> </u> -						
小立体 赤体关		_i						
英語コミュニケーション	講義			7				
添付ファイル								
	T. S. S. S. S.			7				
	ļ	る教員等による ある教員による						
	ļ							
	口実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等							
授業種類	授業で使用す □日本語	る言語						
	■英語			-				
	□その他			-				
				1				
	アクティブラ		& Taylor 12 Inc. 17	 -				
			を取り入れている 特に調辛辛素学)・辛耜論の基	木的脚今について学んでいく	。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーショ			
ATTIMATE OF THE CHARLES	•				系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比			
授業の内容(概要)	較音声学の観	点から考えてい	く。授業形式は、反転授業の形	式を取り、自宅で予習してき	た新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を			
			向あるいは多方向に行われる議					
授業の目的	1 .				織を応用して、受講者の英語コミュニケーションや英語教授の実践に役立ててもらいたい。国			
	<u> </u>		の定めるDP1とDP3の達成に関 も数目も含めた議論を通して		深く学び、専門知識を身につけることができる。また、レポートやクラス内での発表を通し			
到達目標	1		や教員も含めた議論を通じて、 つけ出す力をつけることができ		末く子ひ、 等门知識を身に ブけることが (きる。また、レバート (グ)ブス内 (の先衣を題)			
	第1回	Introduction						
	コースの概要	の説明。これま	での自分の英語学習あるいは教	育現場での経験を振り返りな	がら、日本語話者としてどのような発音上の問題があるか、また、指導者として発音指導の難			
	しい点を受講者相互で、また教員も含めて議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第2回	<u> </u>	ciation Syllabus Design: A Qi 断の仕方を考える。ニナストの		ラフカで発生する 発生内容(Fついて学生相互で学会) この後数目を会めて学会をする (70)			
	話者一人一人の英語発音の診断の仕方を考える。テキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双 方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第3回 Analyzing Speech 1							
	音響分析ソフ	トPraatを使いた	ながら、受講生が自身の英語発	音を録音し、音声分析を行う。	前回の授業で考えたアセスメントの方法を使いながら、発音診断を行い、その結果をクラス内			
	で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第4回 Analyzing Speech 2 音響分析ソフトPraatを使いながら、受講生が自身の英語発音を録音し、音声分析を行う。今回は特に英語母音にフォーカスし、母音スペースの作り方と診断の仕方を学び、その結果を							
	i				っ回は付に英語時目にフォーカスし、時日ベベースの作り方と診断の止方を子び、その結果を る。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
	第5回 Ch 9: A Communicative Approach to Pronunciation Teaching							
	英語発音の練習を目的としたクラス内アクティビティの種類や方法についてテキストの内容をまとめ、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーション							
	の場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる ませきも供え物景)							
	討論を伴う授業 第6回							
	第6回	<u> </u>			ノニー・フェー・フェー・カー・カー・カー・フェー・カー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー			
	ストレス、イントネーション、調音結合、ポーズなどの韻律構造を練習するアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場 や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をす							
	第7回 Ch 12: Pronunciation-Based Listening Exercises							
	リスニングスキルを使って英語発音を練習するアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケー							
	ションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)							
	第8回		ng Pronunciation: An Invento	ory of Techniques				
		<u> </u>	·		ィについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場			
授業計画	や英語を使っ	たコミュニケー	ションの場面で役立つアクティ	ビティを受講生が考える。テ	キストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をす			
	<u> </u>		われる討論を伴う授業)					
	第9回	<u> </u>	ping Self-Correcting and Self		を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニ			
	1	3			を受験上がよこめて、グラス内で光衣する。また、天際の教育現場で失品を使ったコミュー 容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われ			
	る討論を伴う		, _ , , _ , , , , , , , , , , , , , , ,					
	第10回	Ch 15: Develo	ping Natural and Confident S	peech: Drama Techniques	n the Pronunciation Class			
	自然で自信を	持った英語発音	を練習するためのドラマテクニ	ックを使ったアクティビティ	こついてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や			
	Ī			を受講生が考える。テキスト	やテクニックの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向			
		に行われる討論 Ch 16: Unintel	を件つ技業) ligibility and the ESL Learner	r				
					ストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使った			
	コミュニケー	-ションの場面で	聞き手に理解される英語発音の	あり方を受講生が考え、学生	相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授			
	業) 第12回 Practicum: Individual Sound Practice							
		<u> </u>		アクティビティや課題を受講	生が考え、クラス内で実践する。また、実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問			
	題点をまとめ)、クラス内で発	表する。発表内容について学生	相互で議論し、その後教員を	含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
	第13回	Practicum: En	glish Prosody Practice					
					よく練習するためのアクティビティや課題を受講生が考え、クラス内で実践する。また、実際			
	の教育現場でわれる討論を		古は、その成果や問題点をまと	.め、クフ人内で発表する。発	表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行			
		Practicum: En	glish Drama					
	ļ			クラス内で実践する。また、	実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問題点をまとめ、クラス内で発表する。発			
			論し、その後教員を含めて議論	をする。(双方向または多方向	に行われる討論を伴う授業) 			
	第15回 これまで学ん	Review がことについて	学生相互で議論し、その後教員	を含めて議論をする。(双方向	または多方向に行われる討論を伴う授業)			
	1							

テキスト	Peter Avery & Susan Ehrlich, 『Teaching American English Pronunciation』 Oxford Handbooks for Language Teachers, Oxford University Press. ISBN: 9780194328159
テキスト購入方法	各自で購入すること。
参考文献	Peter Ladefoged,『A Course in Phonetics, 5th ed.』Thomson Wadsworth. ISBN: 9781413020793, 『ビジュアル音声学』川原繁人著 三省堂 ISBN: 9784385365329
成績評価の方法	テキストのプレゼンテーション50%、Practicum 50%
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。または、email, Google Classroomを通して連絡する。
履修上の注意	英語で授業を行う。
	事前学習:テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。 事後学習:授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学修時間:合計30時間(1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習)
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。

講義科目名称	英語コミュニケーシ			副題	Analyzing the Organization of Social Interaction				
英文科目名称	English Com	nmunication Stu							
開講期間 前期		配当年 1・2	単位数 2単位	科目必選区分 必修選択					
担当教員		ļ ·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
	理	<u> </u>							
英語コミュニケーション 添付ファイル	講義								
	実務経験のあ	かる教員等による	授業科目						
	□実務経験のある教員による授業科目 □実務家を招へいして実施する授業科目								
			へいする実務家等						
授業種類	授業で使用する言語								
	□日本語 ■ 英語								
	□その他	<u>.</u>							
	アクティブラ		2 + Th to 7 h or 1 , 7						
	<u> </u>		を取り入れている 析のアイディアをもとに、	人と人の言葉によるやりと	り(相互行為)の研究を行う. とくに「順番交替の組織」と「行為連鎖の組織」について扱い、日常会				
授業の内容(概要)				. 授業形式は, 反転授業の 向に行われる議論を通して	形式を取る. 自宅で予習してきた新たな学習内容を課題シートなども利用しながら受講者相互で議論を 内容を深く理解していく.				
授業の目的	1		ュニケーションに関する	研究の基礎となる相互行為	ついて議論を通して深く理解することを目的としている. 国際コミュニケーション研究科の定めるDP1と				
	L.,	三関与している。 画されたデータの)中から現象を特定し,(b)相互行為の参加者にとっ [*]	ての見通しのよい記述を行えるようになること, そして(c)それらを論理的にアウトブットできるように				
到達目標	なること 第1回	オリエンテーシ							
		-		ます. (双方向または多方向	句に行われる討論を伴う授業)				
	第2回	順番交替の組織							
	順番交替の網	機の概要を説明	します. (双方向または多	方向に行われる討論を伴う	5授業)				
	第3回	課題の検討	++45,++ /30+++	-t.はタナウに仁わねァチン	Φ+ΛV = 4ΩΨΨ\				
				たは多方向に行われる討論	帰を伴う技業)				
	第4回 順番交替の組織(2) 順番交替の組織(2) 原番交替の組織(こいて議論を行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)								
	第5回	課題の検討							
		٠		たは多方向に行われる討論	令を伴う授業)				
	第6回	順番交替の組織	i(3)						
	順番交替の組	且織について議論	を行います. (双方向また	は多方向に行われる討論を	定伴う授業)				
	第7回 課題の検討 第六回で出題された課題の検討を行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)								
	<u> </u>		DELIVERY. (WOLLD.E	プロスタクリロリに1 1424 じる 8 5 6 6	8 C. H - ノ1X来/				
授業計画	第8回 行為連鎖(1) 行為連鎖について議論します。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)								
	第9回 課題の検討								
	第八回で出題された課題の検討を行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)								
 	第10回 行為連鎖(2)								
	行為連鎖について議論します。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)								
	第11回 課題の検討 (7.7.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1								
	第十回で出題された課題の検討を行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第12回 行為連額(3)								
 			/30+++++ 4 2+++	-(-\u00f1) = +=\u00f1) = +=\u00f1					
	行為連鎖に 2 第13回	課題の検討	. (双方向または多方向に	行われる討論を伴う授業)					
			検討を行います. (双方向	または多方向に行われる記	対論を伴う授業)				
	第14回	順番交替と行為	連鎖						
	順番交替と行	テ為連鎖について	のまとめを行います. (双	(方向または多方向に行われ	1.6 討論を伴う授業)				
	第15回	テスト							
	<u> </u>		または多方向に行われる						
テキスト	2. Sacks, H	., Schegloff, E.			ics for the organization of turn-taking for conversation. Language, 50(4), 696–735.				
		org/10.2307/41 で品切となってい		館でeBookにアクセスでき	ist.				
テキスト購入方法	2. インター	ネットで入手でき	ます.	・ガーフィンケル』(新曜社					
参考文献	2. Schegloff				and grammar. Cambridge University Press. https://doi.org/10.1017/CB09780511620874				
成績評価の方法	課題50% テスト50%								
教員への連絡方法	メールにてこ	ご連絡ください.							
履修上の注意	1	と2の両方をご準 で事前課題を提出		討を行うので履修予定者は	必ず事前にご連絡ください.				
	事前学習:ラ	テキストの予定箇		事前にしっかり読み込んで					
授業外学修情報(予習復習				・ あたり合計約4時間の予習	· 復習)				
学生へのメッセージ	毎回の授業で	で読書課題と分析	課題が出ます。毎回の課	題は必ず提出することが単	位認定の必要条件です.				
, <u>1</u> . w// y e - y	<u>L</u>								

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 VI	副題	Language and Social Interaction
英文科目名称	English Communication Studies VI		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 • 2	2単位	必修選択
担当教員			·
荒野侑甫			
<u> </u>			

英語コミュニケーション 講義 添付ファイル

英語コミュニケーション 講義 添付ファイル				
一般のリンアイル				
i	S経験のある教員等による授業科目			
ļ	実務経験のある教員による授業科目 実務家を招へいして実施する授業科目			
	を防水を作べいし、矢鹿りの攻米付日 終経験・授業での活用、招へいする実務家等			
ļ				
155.322.1至355	客で使用する言語 日本語			
-	英语			
	FONE			
1 1	アティブラーニング			
L	アクティブラーニング要素を取り入れている スノメソドロジー・会話分析における記述について学ぶ、とくに今年度は後期ガーフィンケルの主要な議論を読んだあと,後期ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム論とハーヴィー・			
	シックスの行為の理解に関わる議論を中心的に探究する。また講義においては適宜関連する文献も読んでいく。授業形式は反転授業の形式を取る。事前課題を利用し,受講者同士ある			
いは	教員を含めた議論を行う、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。			
授業の目的 この	Dコースは,英語でのコミュニケーションに関する研究のうち相互行為の分析の専門的な研究を行います.国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に関与している.			
(2)6	録音・録画されたデータの中から現象を特定し, (b)相互行為の参加者にとっての見通しのよい記述を行えるようになること, そして(c)それらを論理的にアウトブットできるように			
到 達日倧	家首、雰囲にもログークのキがつれませれたり、(U/ロエロののを)が目にとうての元週りのあい。心型で行えるようにあるとと、こので(C)でもごとの手がにケット・シットできるように ること			
第1	1回 オリエンテーション			
初回	回までに事前課題を提出してもらい,それの検討を行います.(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第2	2回 ガーフィンケル誘解(1)			
ÎT				
<u> </u>				
第3	3回 カーフィングル統解(2) Eスノメソドロジー・プログラム』第1章「エスノメソドロジーとは何か?」の議論の統きを行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第4				
II	Lスノメソドロジー・プログラム』第6章をもとに「生活世界における行為と活動の規範」の議論を行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第5	5回 ガーフィンケル誘解(4)			
ÎI	エスノメソドロジー・プログラム』第6章の議論の続きを行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第6	5回 言語ゲーム論(1)			
<u> </u>				
<u> </u>	スノメソドロジーと言語ゲーム論について議論を行います. (双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第7				
高譜	吾ゲーム論について議論を行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第8	3回 言語ゲーム論(3)			
授業計画 言語	吾ゲーム論について議論を行います.(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第9	9回 言語ゲーム論(4)			
	音ゲーム論について議論を行います。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第10				
ハー	-ヴィー・サックスの『講義』から議論します. (双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第11	1回 ハーヴィー・サックス読解(2)			
ハー	-ヴィー・サックスの『講義』から議論します. (双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第12	2回 ハーヴィー・サックス読解(3)			
Λ_	ヴィー・サックスの『講義』から議論します. (双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第13 八一	3回 ハーヴィー・サックス誘解(4) -ヴィー・サックスの『講義』から議論します。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
i <u> </u>	4回 ハーヴィー・サックス結解(5)			
ハー	-ヴィー・サックスの『講義』から議論します.(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第15	5回 テスト			
筆記	記試験を行います. (双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
1. G	Garfinkel, H. (1967). Studies in ethnomethodology. Polity.			
テキスト 2. G	Garfinkel, H. (2002). Ethnomethodology's program: Working out Durkheim's aphorism (A. W. Rawls (Ed.)). Rowman & Littlefield Publishers.			
3. S	Sacks, H. (1992). Lectures on conversation (G. Jefferson (Ed.); Vols. 1 & 2). Basil Blackwell.			
4. W イン テキスト購入方法	Wittoenstein, L. (2009). Philosophical investigations (P. M. S. Hacker & J. Schult (Eds.); G. E. M. Anscombe, P. M. S. Hacker, & J. Schult (Trans.); 4th ed.). Willy- ンターネットおよび書店にて購入できます。電子書籍版,ハードカバー版,ペーパーパック版のどれを使用しても構いません。			
<u> </u>	D. フォン・レーン(荒野ほか編・訳)『ハロルド・ガーフィンケル』(新曜社)			
:	D. フォン・レーン(元封は71編・3代)『バロルド・ガーフィングル』(新催在) Schegloff, E. A., Ochs, E., & Thompson, S. A. (Eds.). (1996). Interaction and grammar. Cambridge University Press. https://doi.org/10.1017/CB09780511620874			
3. B	3. Baker, G. P., & Hacker, P. M. S. (2007). Wittgenstein: Understanding and Meaning: Part I: Essays (Vol. 1). https://doi.org/10.1002/9780470752807			
放稿評価の方法	\$50% 7 L 50%			
ν-	スト50% - 川にてご連絡ください.			
教員への連絡方法				
腹惨上の注意	回の授業で読書課題と分析課題が出ます. 毎回の課題は必ず提出することが単位認定の必要条件です. 回授業までの事前課題があるので受講前にメールにてご連絡ください. また実際にご自身で録音・録画データの分析やフィールド調査の経験があることが望ましい.			
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	200条までの争削採起があるので支持制にメールにくこ連絡ください。また夫塚にこ目身で録音・興電データの方が19フィールト詞音の特殊があることが望ましい。 前学習: テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。			
	授業外学修情報 (予監信器)			
事前 授業外学修情報(予習復習)事後	後学習: 授業で学んだことを復習し、理解を深める。			
事前 授業外学修情報(予習復習)事後				
事前 授業外学修情報 (予習復習)事後	後学習: 授業で学んだことを復習し、理解を深める。			

講義科目名称	英語学研究 I			副題	Introduction to Linguistics			
英文科目名称	English Linguistics St	dies I		m / AG	1			
20-114020								
開講期間前期	配当年		単位数 2単位	科目必選区分必修選択				
担当教員	1.2		12年位	NEW SELV				
吉村 敬子								
英語コミュニケーション	ン 講義							
英語コミュニグーショ. 添付ファイル	ノー時我							
	実務経験のある教員等							
	□実務経験のある教員 □実務家を招へいして							
	実務経験・授業での活							
授業種類	授業で使用する言語 □日本語							
	■英語							
	口その他			<u>-</u>				
	アクティブラーニング ■アクティブラーニン:	プ亜表を取り	 λ カ ア い ス					
				を例として言語理論の基礎	的な概念を学んでいく。具体的な学習内容としては、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論			
					ぶ:談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、ジェスチャーと手話、歴史言語学、社会言語学			
授業の内容(概要)	1				、練習問題(study questions)などを活用して学生が内容を予習する。授業内では、study questionsの			
					とめの回には、テキスト内の割り振られた課題(Tasks)について学生が発表を行い内容を復習する。集メ を発表するとともに、レポートにまとめる。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
 	このコースの主な目標に	は、音声学(音)、音韻論(音の	構造とパターン)、形態論	(単語の構造) 、統語論(文の構造)、意味論(単語と文の意味)、語用論(話し手が言語表現をどのよ			
授業の目的	i				理論の基礎を理解することである。それにより、言語学(英語学)とはどのようなものか、どのようなア			
	プローチや埋舗があるの	かを知り、「	目りの研究の興味を	採り見つけ出す刀を養つ。	このコースは、国際コミュニケーション研究科のDP1(ディプロマポリシー1)とDP3の達成に関与してい			
 到達目標		生は次の力	を身につける。言語	学の基本的な概念と方法論	を具体例を使って説明することができる。様々な言語現象についてデータを考察し、指定された骨組みを			
到連口係				表現・説明することができ	<u>る. </u>			
			15分野の紹介	調願かどを説明する 二十	ストの目次を参照しながら、学生と話し合い、新たに3つのトピックを決定する。学生の課題(Tasks)発表			
	の分野の割振りをする。	一大い記りし	放りが封これ合い	球盤なこで説明する。テキ	入下の日次を参照しなから、手工と記し合い、制たに3 プの下亡ックを決定する。手工の誘題(Tasks)光を			
	第2回 音声学	第3章)						
	•				できるかを学ぶ。音を表す記号として国際発音記号(IPA)に親しむ。テキスト内の練習問題などを活用し実			
			それについてグル	ープ・ディスカッションを	して、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 			
			学7₺. 音 素. 異音.	最小対・最小対立、音素配	列などの概念を学ぶ。また、英語の音節の特徴、実際の発音における音の変化のパターンについても学			
	!				れについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向ま			
	たは多方向に行われる	論を伴う授	業)					
		第6章と第5章		6 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L				
	1				り、形態素とその種類や特徴、また異形態などの概念を学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の 、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
			語論の最初(第7章					
					学ぶにあたり、構成素分析について学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を			
	行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第6回 統語論 (第8章)							
			るのかを学び、構成	素 (constituent)の種類と名	A称を理解し、句構造規則、樹形図、移動の規則など、生成文法の理論に親しむ。テキスト内の練習問題な			
					カッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を			
	<u>伴う授業)</u>							
				頸(Tacks)について学生・	が発表を行い、これまでの講義内容(音声学、音韻論、形態論、統語論)の復習をする。それぞれの発表後			
	<u>.</u>				の元状を行い、これなくの病状が含くはアデ、自由病感、ルボ病感、水は血過)の反音でする。 これでれたの元状を 多方向に行われる討論を伴う授業)			
	第8回 意味論							
授業計画	Ī				特に、意味素性(semantic features)、主題役割 (thematic roles)、様々な意味関係について学ぶ。テキス			
	ト内の練習問題などを に行われる討論を伴う		言語ナータの分析を	行う。また、それについて	グループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向			
		第10章)						
	i				することによりて結合はといよりは打得を行っているいか7まと、言語の使用にしいて子が。特に、コンデ ※経行为かどの概念を学ぶ、練習問題とディフカッミっと、(双方向またけ名方向に行われる社会を扱う概念			
	ジスト、巨示表現、推注 業)	(interence)、 照心 (anapriora)、前旋 (presupposition)、	発話行為などの概念を学ぶ。練習問題とディスカッション。(双方向または多方向に行われる討論を伴う摂			
		第11章の一		> ± 75 = 7 000 1° 0 5 = 1 = 10				
					手の意図を汲み取るかを理解する。会話の公理、会話の推意 (conversational implicature)などの概念を等 ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われ			
	る討論を伴う授業)	No Man	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,et ettle 201 e 272 2	2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
					歴史言語学、社会言語学(地域・社会)、言語と文化から選択)			
					語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を			
	共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第12回 トピック2 (談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、歴史言語学、社会言語学(地域・社会)、言語と文化から選択)							
	学生の選んだトピック	ついて学ぶ。	テキスト内の練習	問題などを活用し実際の言	語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を			
	共有し、理解を深める。	(双方向また	は多方向に行われる	S討論を伴う授業)				
		復習のための						
					が発表を行い、これまでの講義内容(意味論、語用論、その他 2 つ)の復習をする。それぞれの発表後に、 句に行われる討論を伴う授業)			
			え方も共有し、議論 - トとプレゼンテー:		プロ・ロック・ログ 200世代 ロアンス 大人			
	このコースで学んでき	ことを復習	Jながら、それぞれ		再度言語を研究することや分析の方法について考え、特に関心があることについて話し合う。(双方向また			
	は多方向に行われる討	を伴う授業						
į	///							
	第15回 課題レバ		ヹンテーション					
		ートのプレt	ジンテーション	察・研究した内容を発表す	る。(レポートも提出)			
	学生は自分の興味のある	ートのプレセ	ジンテーション について、自ら考		る。(レポートも提出) Press. (ISBN: 978-1009233408)			

テキスト購入方法	各自購入(8th editionなので、必ず確認)
参考文献	O'Grady, Archibald, and Katamba. (2011). Contemporary Linguistics: An Introduction. 2nd ed. Pearson Education Limited. Parker and Riley. (2004). Linguilstics for Non-Linguists: A Primer with Exercises. 4th ed. Allyn & Bacon. 安藤・澤田 (編)(2001) 英語学入門 開拓者 三原・高見(編)(2013) 日英対照:英語学の基礎 くろしお出版
成績評価の方法	予習・復習15%、予習内容の発表20%、グループディスカッション・議論5%、課題プレゼンテーション20%、課題レポート40%
教員への連絡方法	授業の前後、メール
履修上の注意	授業は全て(読み書きも発表も)英語で実施する。
授業外学修情報(予習復習)	授業前は、指定されたテキストの箇所を必ず読み、指定された練習問題に取り組む。また、発表がある場合は、発表の準備をしっかり行う。授業後は、学んだことを復習し、練習問題の見 直しやあらたな課題に取り組む。1学期の授業外学修時間は合計30時間であり、1回の授業にあたり約2時間の予習・復習時間が求められる。
学生へのメッセージ	言語学・英語学の諸分野を把握したいという学生に、言語学への入門の科目として履修を勧める。

		r
講義科目名称 英文科目名称	英語学研究 III	副題 English Syntax
央人科日名称	English Linguistics Studies III	
開講期間	配当年単位数	科目必選区分
後期		必修選択
担当教員		
深谷 晃彦		
	[24	
英語コミュニケーション 忝付ファイル	講義	
かけ ファイブレ		
	実務経験のある教員等による授業科目	
	■実務経験のある教員による授業科目	
	□実務家を招へいして実施する授業科目	
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等	
	授業で使用する言語	
授業種類	■日本語	
	□英語	
	口その他	
	アクティブラーニング ■アクティブラーニング要素を取り入れている	
		るために、英語の統語面を中心に分析方法を学ぶ。分析の枠組みとしては、生成文法の原理とパラメター理論を用いる。予習
授業の内容 (概要)		可あるいは多方向に行われる討論を通して内容をより深く理解していく。 (この授業は「実務家教員」による、実践的な方法
	による授業である。)	
	1	いて理解を深めることを目的とする。英語における現象が中心となるが、必要に応じて日本語との比較検討も行う。また、教
授業の目的		よび問題点の発見とその解決策の検討を進めていくことにより、論理的思考、問題発見・解決能力を身に付けることも目的と
	する。この授業は、国際コミュニケーション研究科の定める[・生成文法の原理とパラメター理論の枠組みによる。 英語のま	ルコミンド3の運成に奇与する。 基本構文の統語分析方法を理解し、自分でも文の分析ができる。
到達目標	・ディスカッションを通してこれを達成することにより、発表	
	第1回 Chapter 1: Doing Science with Language: Ir	
	自然科学としての言語学、特に生成文法の基本的な考え方にて	Dいて、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、仮説形成と検証、言語生得
	説、普遍文法などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双	
	第2回 Chapter 2: The Structure and Classification	
	語の構造と分類について、予省内容に基つき教員・受講生でっ 方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	ディスカッションすることにより理解を深める。特に、品詞、語形成、接辞などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双
	第3回 Chapter 3: Determining the Structure of Se	ntences
		necines カッションすることにより理解を深める。特に、句構造、構成素、階層構造などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双
	方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
	第4回 Chapter 4: Rules of Sentence Structure: A F	
	i	ィスカッションすることにより理解を深める。特に、句構造規則、再帰性、構造的曖昧性などの概念を学ぶ。(実務家教員に
	よる授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
	第5回 Chapter 5: Assigning Meaning in Sentences	ウッションすることにより理解を深める。特に、文法機能、主題役割、項構造などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、
	双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	1)) J J J J J J J J J J J J J J J J J J
	第6回 Chapter 6: Some Category-Neutral Process	es
	範疇中立的な言語操作について、予習内容に基づき教員・受詞	 大でディスカッションすることにより理解を深める。特に、等位接続、代用表現などの概念を学ぶ。(実務家教員による授
	業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
	第7回 Chapter 7: How Structure Affects Pronoun I	
	代名詞の指示について、予省内谷に基づき教員・受講生でテー 授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	rスカッションすることにより理解を深める。特に、c統御、否定極性表現、束縛理論などの概念を学ぶ。(実務家教員による
	第8回 Chapter 8: Complex Verb Forms	
授業計画		ィスカッションすることにより理解を深める。特に、再帰的動詞句仮説、接辞移動、D構造、S構造、変形規則などの概念を
(文本)	学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ	る討論を伴う授業)
	第9回 Chapter 9: Real vs. Apparent Sentence Stru	ıcture
	!	ディスカッションすることにより理解を深める。特に、主語助動詞倒置、do補助、接辞移動、VからTへの移動などの概念を
	学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ 第10回 Chapter 10: Generalizing Syntactic Rules	ら討論を伴う授業)
		『ディスカッションすることにより理解を深める。特に、動詞句・名詞句・形容詞句・前置詞句の構造、指定部規則、補部規
	則、付加部規則などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、	
	第11回 Chapter 11: Functional Categories	
	1	カッションすることにより理解を深める。特に、Xバー理論、パラメターなどの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向
	または多方向に行われる討論を伴う授業)	JWIIM
	第12回 Chapter 12: Questions, Relative Clauses, ar	
	学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ	.カッションすることにより理解を深める。特に、WH疑問文、関係詞節などの生成過程において仮定されるWH移動の概念を る討論を伴う将業)
	第13回 Chapter 13: NP Movement	
		ションすることにより理解を深める。特に、動詞句内主語仮説、受動態、主語繰り上げなどの概念を学ぶ。(双方向または多
	方向に行われる討論を伴う授業)	
	第14回 Chapter 14: Things to Come: Various Aspec	
		・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、非対格仮説、VPシェル仮説、主題役付与均一性仮説などの
	概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に 第15回 Summary and Review	17474にのお調を行う技夫)
		(「ラメター理論について全体像を概観する。 生成文法のその後の理論展開についても触れる。 (実務家教員による授業)
		"
	Sobin, Nicholas. 2010. Syntactic Analysis: The Basics . W	iley-Blackwell. (ISBN: 9781444335071)
テキスト		į
	& 스크에 1	
	各自で購入する。	
テキスト購入方法		
		į

	渡辺明(2009)『生成文法』東京大学出版会	1
į	中村捷他編(2002)『英語の主要構文』研究社	ı
	中島平三編(2001)『〈最新〉英語構文事典』大修館書店	
参考文献	畠山雄二編(2019)『正しく書いて読むための英文法用語事典』朝倉書店	ı
Î L	田子内健介(2020)『英文法基礎論』開拓社	
į	安願貞雄著(2005)『現代英文法講義』開拓社	1
	安井稔・安井泉(2022)『英文法総覧 大改訂新版』開拓社	
成績評価の方法	ディスカッション : 50%、課題 : 50%	ı
DANGET IM CONTACT		i
教員への連絡方法	初回の授業で提示するメールアドレスによる。	
		ı
履修上の注意	特になし。	
ļ		ı
i	事前学習: テキストの指定範囲を読み、要点や疑問点を整理しておく。	
!授業外字修情報(予省復省)	事後学習: テキストの指定範囲やディスカッションの内容を復習する。	1
i !	1学期の授業外学修時間:合計30時間(1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習)	i
ļ	テキストの指定範囲を読んできていることが前提となるので、必ず予習をしてくること。	
学生へのメッセージ		!
L		

講義科目名称	英語学研究IV			副題	English Phonetics & Phonology
英文科目名称	English Linguis	tics Studies IV		BIJA25	English Molecus & Molecus
					
開講期間 前期		当年 ・2	単位数 2単位	科目必選区分 必修選択	
担当教員				TO ISSEE	
小笠原 奈保美					
英語コミュニケーショ	ン 講義			<u>-</u>	
添付ファイル	ノー門子以				
	<u> </u>	教員等による授業			
		る教員による授業 いして実施する授			
		での活用、招へい			
授業種類	授業で使用する □日本語	昌裕		 	
	■英語				
	□その他				
	マクニ・ゴニ	- \ , H		-	
	アクティブラー ■アクティブラ	ーイン ーニング要素を取	り入れている		
				論の基本的概念について学ん	でいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーショ
授業の内容 (概要)	1				の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比
	1			業の形式を取り、自宅で予習 れる議論を通して内容を深く	7してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を 理解していく。
=#*0=**					生併していて。 らの知識を応用して、受講者の英語コミュニケーションや英語教授の実践に役立ててもらいたい。
受業の目的	1		めるDP1とDP3の達		
到達目標					ついて深く学び、専門知識を身につけることができる。また、レポートやクラス内での発表を通し
			出す力をつけること : Spelling and Pron		
					などをまずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。英語の綴りと発音の違いについて
	1		お多方向に行われる記		
	第2回 C	n 2: Individual S	ounds of English (c	onsonants)	
					中心にテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論
	<u> </u>		る。(双方向または多 ounds of English (v	方向に行われる討論を伴う owels)	^{受美})
					Dの筋肉の緊張 を中心にテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容に
	i			る。(双方向または多方向に	
		n 3: English Sour			
	i i			のように変化するか、調音線 。(双方向または多方向に行	合のメカニズムについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容につい のわる社会を伴う概要)
	·	n 4: The Shape o		。(XX)193.7C(33/X)191C117	刈じる的 調心(計) 10未)
	<u> </u>			テキストの内容を受講生がま	とめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をす
	T		1る討論を伴う授業)		
			and Vowel Reduct 仕組みと母音の配化		講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて誰
			江柏みと母自の弱し 「行われる討論を伴う		調主がまとめて、グラス内で光衣する。光衣内台について子生相互で酸調し、その依然貝を召めて選
	第7回 C	n 6: Connected S	Speech		
	i				トネーション)、リンキング、音の消去や同化についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス
		発表内容について eview	学生相互で議論し、	その後教員を含めて議論をす	る。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
			、疑問点や十分議論	がなされていない事柄につい	て学生相互で議論し、その後教員を含めてクラス全体で議論をする。(双方向または多方向に行われ
	討論を伴う授業)			
授業計画		ポート発表			
	1	ことで、特に関心 う方向に行われるii		レボートにまとめてもらい、	それを発表してもらう。また、その内容について、受講者同志や教員を含めて授業で議論していく。
	<u>, , </u>		可嗣を行り反来) onunciation Probler	ns	
					か、英語の音声・韻律構造から考える。テキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。
					こは多方向に行われる討論を伴う授業)
				e Groups (Arabic, Farsi, G	
					『しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で プラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向
	1	われる討論を伴う			
	<u> </u>			e Groups (Chinese, Korea	
					ごから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で調べた4 発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多
	向に行われる討				
				e Groups (French, Italian,	
	1				、難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容 ・キャトカス・クラス内で発生する、発生内容について学生担互で送会し、その後数品を含めて送会と
			質を含めて、比較音 Oれる討論を伴う授業		をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論で
				e Groups (German, Hindi	& Punjabi, Polish)
	ī				る難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容
	i i				容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論
			うわれる討論を伴う扱	授業) Je Groups (Japanse)	
					と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で調べた日本語の特質を含めて、
	<u>l</u>				に
	う授業)				
	ノ技夫ノ				
		Susan Ehrlich, 🛭	Teaching Americar	English Pronunciation』O	ford Handbooks for Language Teachers, Oxford University Press. ISBN: 9780194328159

テキスト購入方法	各自で購入すること。				
参考文献	Peter Ladefoged,『A Course in Phonetics, 5th ed.』Thomson Wadsworth. ISBN: 9781413020793, 『ビシュアル音声学』川原繁人著 三省堂 ISBN: 9784385365329				
成績評価の方法	テキストのプレゼンテーション50%、レポート(プレゼンテーション含む)50%				
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。または、email, Google Classroomを通して連絡する。				
履修上の注意	語で授業を行う。				
	事前学習:テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。 事後学習:授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学修時間:合計30時間(1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習)				
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。				

講義科目名称	応用言語学研究 I		可屬	Introduction to Language Acquisition
6義科目名称 5文科目名称	心用言語字研究 I Applied Linguistics I		副題	Introduction to Language Acquisition
	1			
講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
期 当教員	1 · 2	2単位	必修選択	
田真理				
語コミュニケーション 付ファイル	講義			
ペリンアイル				
	実務経験のある教員等に	よる授業科目		
	□実務経験のある教員に			
	□実務家を招へいして実 実務経験・授業での活用			
	X 35 44 50 1 X 34 5 1 7 11 11	X 11 + 7 #2C123XX		
授業種類	授業で使用する言語			
	□日本語			
	■英語 □その他			
	アクティブラーニング			
	■アクティブラーニング マの哲学では母語様得の		 幼児による言語音の知覚と産	中 紅島や文様性の羽
業の内容(概要)				ロ、暗寒ヤス伸這の音 た内容をまとめ、議論を通して内容を深く理解していく。
受業の目的 	_ <u> </u>	ての基礎的な知識を身につけ		
達目標	母語獲得の基礎概念を学	ぶことによって、子ども言語	発達について記述や考察がで	きるようになる。
	第1回 イントロタ	ブ クション		
	クラス運営、課題、テキ	スト等について説明する。		
	第2回 言語音の知	T賞.		
			, a & + 1970 - a + A = T + 7	
	乳児の言語音の知見で分	「即化に関する調査を読み、そ	の発達過程について検証する	。
	第3回 語彙の習得		2 A 77 / E A MAI - H. IV - 7 / E 4 II AN	Albert A. St. o. MAR In
	派生形態素、屈折形態素	の獲得について学ふ。形態素	の督得の際に生しる適剰一般	化や複合語の習得について考える。
	第4回 語彙の習得	 (2)		
	名詞と動詞の獲得につい	て学ぶ。子どもは驚くべきス	、ピードで名詞や動詞を習得す	るが、なぜそのようなことが可能なのか、そのメカニズムについて考える。
	第5回 語彙の習得			には習得に時間を要するものが存在する。どのような形容詞、前置詞の習得が遅いの
	して理由について考える		「新聞に近く、 ル合列(*別)直列	には自存に時間を安するこのが下江する。このようなか合詞、前回詞の自存が延いのか
	第6回 文構造の習	習得(1)		
	基本語順(主語、目的語	など)と文法形態素の習得に	ついて学ぶ。子どもは文法形	態素をある一定の順序で習得すると報告されている。どの形態素が習得が早く、どの
	の習得が遅いのか、その	習得のメカニズムについて考	える。	
	第7回 文構造の習	3得(2)		
	子どもは否定文と疑問文	の習得を同じ段階を経て習得	すると報告されている。習得	の段階とはどのようなものなのか、そしてその習得のメカニズムについて考える。
	第8回 文構造の習	习得(2)		
受業計画			カ文や空範疇を伴う文の意味を	理解するのに時間がかかると報告されている。なぜ習得が遅いのか、そのメカニズムに
	て考える。			
	第9回 文構造の習	習得(4)		
	代名詞の獲得について学	 ぶ。子どもは再帰代名詞より	 も代名詞の方が習得が遅いと	報告されている。なぜそのような順序になるのか、そのメカニズムについて考える。
	第10回 言語音の産	至出(1)		
	<u> </u>		 数を通し、言語音の産出におり	
				, ひノル左尾(主 C I X III 7 ' O' o
	第11回 言語音の産	隹出(2)		
	第10回に引き続き、言語	音の産出における発達過程を	2検証する。	
	第12回 言語習得の	ンメカニズム(1)		
	マザリーズや否定証拠な		プットの効果について検証をす	వె.
			- Cone Co	
	<u> </u>	Dメカニズム(2) 5る、「普遍文法」からのアフ	プローチについて学で	
	□□短時柱⊪り ̄ノじめ	で、 1日旭又広」かりのどノ	ローノに刀いて子小。	
	第14回 言語習得の	Dメカニズム(3)		
	「普遍文法」以外の言語	獲得理論のアプローチについ	て学ぶ。	
	第15回 まとめ			
				5447A
	授業で学んだことをまと	め、その内容いついて、受講	諸相同士や教員を含めて授業で	議論していく。
 テキスト	O'Grady, W. (2005) Ho	ow Children Learn Languag	e . Cambridge University Pr	ess.
	15 W d. (- 16			
テキスト購入方法	授業中に指示する。			
	:			

参考文献	Glinkoff, R. M. & Hirsh-Pasek, K. (2000). How Babies Talk. New York, NY: PLUME.
成績評価の方法	発表30%, 課題70%
教員への連絡方法	Eメール、Google Classroom、ボータルの何れかを使い、メッセージを送ってください。
履修上の注意	テキストを必ず購入してください。その他、授業中に指示する。
授業外学修情報(予習復習)	1学期の授業外学修時間 合計30時間(授業予習・復習, 課題の解答, レポート/発表の準備・執筆)
学生へのメッヤージ	言語習得のプロセスは大変複雑で、まだ解明されていないことが数多くありますが、皆さんにとってこの授業が 母語獲得の仕組みについて考える第一歩になってもらえたらと思っています。

## * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	作用=話学Ⅲ次	0187	Introduction to C	ocend Language Acquisition			
講義科目名称 英文科目名称	応用言語学研究 II 副 Applied Linguistics Studies II	割題	Introduction to S	econd Language Acquisition			
00 *** 144 00		CT VIA for	Total RESIGNATION				
開講期間前期		記当年 ・ 2	単位数 2単位	科目必選区分 必修選択			
担当教員							
スネイプ ニール							
英語コミュニケーション 添付ファイル	講義						
10W11 > 7 17*							
	実務経験のある教員等による授業科目 □実務経験のある教員による授業科目 □実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等						
授業種類	授業で使用する言語 ロ日本語						
	■英語 ロその他						
 	アクティブラーニング ■アクティブラーニング要素を取り入れている The class format is a flipped classroom format, in which stu	udents deeply understan	d the new learning o	ontent they have prepared at home through interactive or multidirectional			
授業の内容 (概要)	discussions, such as discussions among students and discussion field of education, participants discuss with each other what Furthermore, by applying the concept to a wider range of lar	ions with teachers. In a t topics are difficult to anguage data while con	ldition, while lookin inderstand and acqui ducting group discuss	g back on the students' own experiences in English learning and in the			
授業の目的	terminology in English through discussion. In addition, whil points of second language acquisition of English and other la	ile reflecting on student languages that are diffic	s own experiences in cult for learners to ur	sition (SLA). This course provides an in-depth understanding of SLA English learning and in the field of education, we will discuss what iderstand and why. Specifically, we will consider what makes acuisition der theoretical ideas up to now and cultivate the ability to identify issues.			
到達目標	instructor, students will consider their theoretical ideas and a			oics. In addition, through discussions among students and with the			
	understand and master as learners, while looking back on the with the instructor. [Classes with interactive or multi-directi 第 2 回 Finiteness and Second language (L2) Learners	eir own experiences in tional discussions]	English learning and	structors will discuss with each other what topics are difficult to the educational field. Discussions will be conducted among students and			
	When we say "finiteness" we discuss with each other what we are talking about and what "grammar" means in the first place, and how this relates to L2 studiesDiscussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions] 第 3 回 Universal Grammar (UG)						
	There are various types of theories related to acquisition. In class, students first discuss how they think language is acquired by humans. At the same time, we will discuss the characteristics of English and Japanese and how differences between languages can be described. Then, we will discuss Universal Grammar (a nativist approach to language acquisition) and how the theory describes languages and language acquisition. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
	第4回 The Critical Period Hypothesis (CPH) What is the 'critical period'? Students discuss what they know about the Critical Period Hypothesis and how it has been applied to language acquisition and by extension, to second language acquisition. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
	第5回 Poverty of the Stimulus (PoS) Students are asked to consider what the 'Poverty of the Stimulus' refers to when discussing first and second language acquisition. How can successful language acquisition be explained if we fail to consider PoS? How is PoS related to Universal Grammar? Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
	consider what the differences are and what this means for the [Classes with interactive or multi-directional discussions]	the proposal that first l ne role of Universal Gr		fundmentally different from second language acquisition. We will assions will be conducted among students and with the instructor.			
		c Transfer Hypothesis. hat this particular hypot	hesis lays out in tern	t they know about prosodic transfer generally fromn their own as of what may be difficult to acquire in regards to morphology in the interactive or multi-directional discussions]			
授業計画	pronoun that preceeds it (e.g., <i>John</i> took a picture of <i>himselj</i> consequences are for SLA. Discussions will be conducted an	elf). Students will use the	neir knowledge of fir				
	第9回 L1 Transfer - Tense and Aspect After explaning the characteristics of English 'Tense' and 'Aspect', students discuss how the Japanese 'Tense' and 'Aspect' system differs from English and how transfer affects Japanese learners of English and English learners of Japanese. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
	problems, creating an acquisition bottleneck. The Feature Re	themselves are not pro leassembly Hypothesis al categories and vocab	plematic; working ou pelieves that the procularies, including tho	t how they are expressed via second language morphology is what causes ess of learning L2 is not only about selecting formal features not selected se that are selected. We discuss in class what these hypotheses mean for es with interactive or multi-directional discussions]			
		rent failure of most adu Surface Inflectional H	ilt second language le ypothesis which does	earners to achieve native-like success. Alertantively, another explanation in not assume a deficit. We discuss in class what these hypotheses mean			
	differs from a nativist approach. Discussions will be conduct	on from a different persected among students and	pective. Students are I with the instructor.	to discuss the 'Empiricist Emergentist' Approach and determine how it			
		rent perspective. Stude	nts are to discuss the	'Nativist Emergentist' Approach and determine how it differs from the tor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]			

1	第14回 L1 Transfer and Instruction					
 	Students have a chance to discuss the role of L1 transfer and how this may affect instruction in the second language. Students can discuss their own experiences of instruction and whether it helps overcome L1 transfer effects. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
	第15回 Presentation					
ļ	Students have to present on an SLA topic they are particularly interested. In addition, there will be Q&A and each topic will be discussed in class. Discussion will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
テキスト	Snape, N. & T. Kupisch (2016). Second Language Acquisition: Second Language Systems. Croydon, UK. Bloomsbury					
テキスト購入方法	Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp					
参考文献	Students will be able to download copies of lecture slides as handouts from Google Classroom.					
成績評価の方法	Presentations 50%, term papers 50%					
教員への連絡方法	email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp					
履修上の注意	Students are required to purchase the course book.					
授業外学修情報(予習復習)	Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance. Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class.					
学生へのメッセージ	Most of the classes given throughout the course are based on the course book Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students.					

講義科目名称	応用言語学研究III	副題	Applied Second Lang	uage Acquisition
英文科目名称	Applid Linguistics Studies III			
月 · 珠 北 月 月		和平在	出压器	科目必選区分
開講期間			単位数 2単位	必修選択
担当教員				<u></u>
スネイプ ニール				
英語コミュニケーション	講義			
添付ファイル	·			
	実務経験のある教員等による授業科目	1		
	□実務経験のある教員による授業科目			
	□実務家を招へいして実施する授業科目			
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等			
100 AP- 242 APC	授業で使用する言語			
授業種類	□日本語			
	■英語 ロその他			
	アクティブラーニング ■アクティブラーニング要素を取り入れている			
		idents deeply understand the	new learning content	they have prepared at home through interactive or multidirectional
				c on the students' own experiences in English learning and in the
lot alle en els etc. (Introde)	field of education, participants discuss with each other what Furthermore, by applying the concept to a wider range of la			we will deepen our understanding of Applied SLA topics, and
授業の内容 (概要)	consider the role of instruction in second language acquisition			assions in class. [Classes with interactive or multi-directional
	discussions]			
				nis course provides an in-depth understanding of intervention
授業の目的	intervention research that has been conducted to date. Stude			rning and in the field of education, we will discuss the type of search.
		•		
				tanding of the role of instruction in SLA. In addition, through
到達目標	discussions among students and the instructor, students will	consider their theoretical id-	eas and acquire the ab	ility to identify issues.
	第1回 Introduction			
	By explaining the outline of the course and relating to the to	opics covered in this course,	students and instructo	ors will discuss with each other what topics are difficult to
	understand and master as learners, while looking back on th	eir own experiences in Engl	ish learning and the e	ducational field. [Classes with interactive or multi-directional
j	第2回 Theoretical Foundations			
	Students have a chance to discuss what they have learnt so f and with the instructor. [Classes with interactive or multi-d		etical foundations, i.e.	, Universal Grammar. Discussions will be conducted among students
	第3回 Intervention Research and Grammar Teachir This provides stduents an overview of what intervention res		rventions have been a	dministered regards to grammar teaching. Students discuss their own
				ed among students and with the instructor. [Classes with interactive
	or multi-directional discussions]			
	第4回 Articles			
				ance to discuss their own experiences with learning the article e conducted among students and with the instructor. [Classes with
	interactive or multi-directional discussions]			
	第5回 Verb Placement and Question Formation			
1				ition of the verb with respect to other elements in the sentence and,
	most importantly, the position of the verb in main and embe understanding. Discussions will be conducted among studer			students will be able to discuss the topic together and check their own
		ins and with the instructor.	[Classes with interacti	
	第6回 Inflectional Morphology We address the SLA of inflectional morphology, in particul	ar, the markers of tense, ag	eement, and grammat	tical gender. Inflectional morphology is known to be particularly
	challenging for adult L2 learners in all the second languages	s tested and has been termed	the "bottleneck" of the	ne L2 acquisition process by Slabakova (2008). As a result, this area
	of the grammar has been subject to many experimental SLA the Bottleneck Hypothesis. Discussions will be conducted a			to took the Introduction to SLA course will already be familiar with
	and Bottlement Trypomesta. Biboussions will be conducted a	among stadents and with the	moraeter [classes v	The interest of many anteriorial about 50 mg
	第7回 Subjunctive Mood			
				we mood take substantial time for learners to acquire, but it is also a subjunctive depend on the interplay of syntactic, semantic, and
				correct choice of verb form, whereas in other sentences the use of
	the subjunctive is optional, depending on the meaning the spine of the subjunctive and the subjunctive is optional.	peaker wants to convey. Dis	cussions will be condu	acted among students and with the instructor. [Classes with
	interactive or multi-directional discussions]			
	第8回 Argument Structure			
	Have you ever wondered why the sentence I painted the hot plane was arrived at noon is ungrammatical? These differen			not? Or why The plane was delayed until noon is fine but The
				challenges both for children acquiring their native language and for
		ssions will be conducted am	ong students and with	the instructor. [Classes with interactive or multi-directional
	discussions]			:
	第 9 回 Direct and Indirect Objects			
		erb. Objects correspond to the	ne arguments (obligate	ory elements) of verbs. As discussed, sentences with transitive verbs
	such as see, touch, and discover require an obligatory noun			nd, and tell, require a direct object and an indirect object to complete
				direct objects can be replaced by object pronouns (see them, tell him,
				and this is more visible in languages that mark case overtly than it is
F2 #F3 ===				English and with direct and indirect objects and object pronouns in ey pose serious learnability issues, especially at intermediate levels of
授業計画				but to date show that explicit instruction and negative evidence are
	effective in promoting the acquisition of these phenomena. discussions]	Discussions will be conduct	cu among students an	d with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional
	第10回 Word Order and Related Syntactic Phenome			
				presents a potential challenge to the learners, and may be subject to ducted among students and with the instructor. [Classes with
	interactive or multi-directional discussions]			
}				

!	第11回 Where to Go Next
	In the past few years there has been growing recognition that linguistics and SLA must do more to inform second language learning in the classroom (see, e.g., Whong, Gil, & Marsden, 2013), and that the two fields must relate to each other fruitfully. In this volume we have explored the relationship between linguistic theory, the SLA of different aspects of morphology, syntax, and semantics, and language teaching. We have examined existing intervention research motivated by linguistic and pedagogical research questions, including but not limited to studies of developmental sequences in the framework of Pienemann (1989) and studies on input processing instruction (VanPatten, 1996). In this closing chapter, we review what we have learned so far in this book. First, we summarize the main themes that have emerged from the studies in this volume. Subsequently, we offer some suggestions for where to go next. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第1 2回 Umeda et al. (2019) We leave the coursebook and look at an original paper that conducted intervention research. We look at the topic discussed in Week 4, articles. The paper by Umeda et al. (2019) is the paper we discuss. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第13回 Language Education (part 1): Purposes of Language Teaching What is the purpose, value and role of language in education as outlined in education policy or syllabus guidelines you are familiar with? What is your own understanding of what language teaching is for? How does your own opinion differ from ideas outlined in education policy?
	i) How does the purpose differ for teaching of the national language and teaching of additional languages for you? Where is it the same? ii) Does the purpose differ if included at primary school level as opposed to middle or secondary school teaching? How about adult language teaching, for example, to recently arrived migrants?
	iii) Is purpose dependent on national context? Or type of school? Or does it depend on the socioeconomic status of the students in question?
	Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
 	第14回 Language Education (part 2): Language Acquisition and Learning There are many things about language learning and language development that we still do not understand. List three questions about language development that you have.
	i) Now consider each question in terms of whether or not it could be used as a Research Question for empirical or theoretical study? Do so by thinking about how you could go about finding the answer to the question. Is it something that is 'research-able'? ii) Now consider each question you came up with in terms of teaching. What effect does each question have on classroom pedagogy? In other words, if you don't know the
	answer to the question you have posed, then what does this mean you might do (or not do) in your teaching? iii) Think about where your questions came from. Do they stem from your own experiences as a language teacher? Or perhaps your experience as a language learner? Do any of them find some clarification from ideas presented in this book? To what extent do the ideas in this book raise additional questions for you?
	Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第115回 Presentation Students have to present on an SLA topic they are particularly interested. In addition, there will be Q&A and each topic will be discussed in class. The discussion will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
テキスト	Ionin, T. & Montrul, S. (2023). Second Language Acquisition: Introducing Intervention Research. Cambridge University Press. Rankin, T. & Whong, M. (2020). Grammar: A Linguist's Guide for Language Teachers. UK. Cambridge University Press. Chapter 5.
テキスト購入方法	Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp
参考文献	Students will be able to download copies of lecture slides as handouts from Google Classroom.
成績評価の方法	Presentations 50%, term papers 50%
教員への連絡方法	email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp
履修上の注意	Students are required to purchase the course book.
授業外学修情報(予習復習)	Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance. Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class.
 学生へのメッセージ	Most of the classes given throughout the course are based on the course book Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students. We will

	lem=srusses		I—ur-	Tr. P. J. Down
講義科目名称	応用言語学研究 IV	T\/	副題	Individual Differences in Second Language Acquisition
英文科目名称	Applied Linguistics Studies	IV		
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分]
前期	1 • 2	2単位	必修選択	
担当教員				
神谷 信廣				
英語コンューケーション	浦義		 1	
英語コミュニケーション 添付ファイル	/ 時代			
70-13-2-3-17-2			j	
	実務経験のある教員等による	授業科目		
	■実務経験のある教員による	授業科目		
İ	□実務家を招へいして実施す			
	実務経験・授業での活用、招	へいする実務家等		
İ	授業で使用する言語			
授業種類	□日本語			
	■英語			
	□その他			
	アクティブラーニング	た 肥 川 3. ね ブ 1、フ		
	■アクティブラーニング要素 第二言語翌得の個↓美に関す		・・・・ 東門的か学習の基礎知	- 徹を身につける。授業形式は、反転授業の形式を取り、課題として教科書を読み、担当者がプレヤ
授業の内容 (概要)	i			を受けたり質疑応答をしたりして、双方向あるいは多方向に行われる授業を展開していく。(上記
	業種類」に記されているよう			
	 			第二言語習得に対して、個人差が与える影響に関する研究課題を見つけ出す力を養う。
授業の目的	į			
	(t) = === m(n = 10 · · · · · ·	7 W C L V 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		W-1000 = = 33 m/g (= 1-2 - 2 m/sm; (= 2, 1 - 200 d = - 1 1 2 - 2 d = -
到達目標	J			差が第二言語習得に与える影響について説明することができるようになる。授業で取り上げる代表
	個人差の要素を、自分自身の 第1回 Introduction	大品子自パティーナング	に心州にざるようになる。	
	ļ	に、第二言語習得に影響を	を与えるかを学生相互で話	し合う。その後、コース全体の概要と、それぞれの授業で扱う内容の概要を説明する。最後にプレ
	テーションの割り当てを決め			
	第2回 Introduction:	Individual differences		
	第二言語習得における個人差	に関して、担当の学生がこ	プレゼンテーションを行い	授業で扱う個人差が、第二言語習得にどのような影響を与えるかを学生相互で話し合う。また、
	言語習得における個人差の研	究の歴史、成果、問題点が	などを説明する。(実務家教	員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Personality			
	!			て、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その
			から、自分の性格が第二言	語習得に与える影響について話し合う。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる
	第4回 Language apti = 語源性が 第一章語翌温に		カかというテーマについて	担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その役
	!			: 12mのチェガラレビング フェンを打いて 18のチェビのディスカッションをラードする。 Cong 方向または多方向に行われる討論を伴う授業
	第5回 PLAB			
		z測定するテストを全員で	受験する。その結果をシェ	アし、言語適性テストから分かる言語習得の得意な人の特徴、及び言語適性テストの限界点につ
	し合う。(実務家教員による授	愛業、双方向または多方向	に行われる討論を伴う授業	(1)
i i i	第6回 Motivation			
				担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その役
			を説明する。(実務家教員に	:よる授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
		s and cognitive styles	トミナンビ細チところのかし	いうテーマについて、担当の学生がブレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションを
	ł			パウテーマについて、担当の学生がフレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションで . 問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授
		egies and self-regulatio		一向起流はことが引きる。(大切が外界による)文末、ハカ門はたはタカ門に1177での計画と下フ文
授業計画				こついて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする
	!			より包括的な概念である自己調整について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多
	第9回 Other learner	characteristics		
	第二言語習得に影響を与える	個人差として、創造性、フ	「安、コミュニケーション	こ対する意欲、自尊心、信念について担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディ
	カッションをリードする。そ	の後、これらの中で学生に	. 興味があるものを選び、	その研究成果や問題点について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ
		al period hypothesis		
	1			というテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッション ドちが明まる。(実験家教界による概葉、別方向または名方向に行われる計論を伴う概葉)
	リードする。その後、第二言 第11回 Genie	両首侍における牛齢の研	いの歴史、成果、問題点な	どを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
		れずに過ごしたジーニー	という少女のドキュメンタ	リーフィルムを鑑賞する。その後、研究と子どもの養育を両立することの難しさ、研究倫理など(
	て討論する。(実務家教員によ			
		y of instructed second I		
	1			の中でどのように捉えられてきたかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行
	他の学生とのディスカッショ	ンをリードする。その後、	暗示的知識と明示的知識	こ関する研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方
		y of instructed second I		
	i			ついて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。
			などを説明する。(実務家	教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回 Final presenta 学生個人個人が、自分が一番		オステーマに関してプロギ	ンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、プレゼンテーション
	i			ンテーションを行い、他の子生とのティスカッションをリートする。その後、プレセンテーション たは多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回 Conclusions	2 2 2 7 2 0 (X 3) N		
		n	5学羽や二 / てヽだたい	カトスによかしていくのかも詳し合う。 またでわからの周し至の頂かのもみまし、 思考 の意味です
	本授業で子んたことを振り返	リ、写俊の目分目身の英語	#子省やティーチンクにど(のように生かしていくのかを話し合う。またこれからの個人差の研究の方向性と、最後の課題でま
テキスト	Dörnyei, Z., & Ryan, S. (20	15). The psychology of	the language learner rev	risited. New York, NY: Routledge.
- 1731		chology of second lang	uage acquisition. Oxford,	UK: Oxford University Press.
テキスト購入方法	各自購入。			
	 			
参考文献	特になし。			
> ¬ \ m\	į			

	1. Presentations: 15%
	2. Reflections: 15%
	3. Comments on reflections: 5%
成績評価の方法	4. Reading reports: 15%
	5. Comments on reading reports: 5%
	6. Final presentation: 15%
	7. Reflection paper: 30%
教員への連絡方法	メールを使用する。文面は英語で書くこと。
履修上の注意	授業は英語のみを用いて行う。
	事前学習:次回の授業で学習する、教科書の指定された箇所を読む。プレゼンテーションを行う学生は、その準備を行う。
授業外学修情報(予習復習)	事後学習:授業の振り返りを英語で書き、オンラインに投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。また毎週のテーマに関連した研究論文を1本読み、その概要と批判を
技夫介子修用報(70首接首)	投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。
	1回の授業に対して、合計約2時間の予習・復習を行うことが求められるので、1学期の授業外学修時間は合計30時間となる。
学生へのメッセージ	毎時間の予習、復習が大切です。

講義科目名称	応用言語学研究 V		副題	Acquisition of English by Japanese Speakers
英文科目名称	Applied Linguistics V			
開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	₁
後期	1 • 2	2単位	必修選択	
担当教員				
梅田 真理				
英語コミュニケーション	対議			
添付ファイル				
	実務経験のある教員等による授 □実務経験のある教員による授			
	□実務家を招へいして実施する			
	実務経験・授業での活用、招へ	いする実務家等		
	授業で使用する言語			
授業種類	□日本語			
	■英語			
	□その他			
	アクティブラーニング			
	■アクティブラーニング要素を	取り入れている		
}	学習者の母語は、第二言語の習	得・発達に影響を与え	ると考えられている。本授業	ぎでは、日本語を母語とする学習者による英語の習得に焦点を当て考えていく。日本語と英語の特
				※響を与えるかについて、日本語を母語とする学習者の英語の習得を検証した研究を紹介する。その概要の必ずを取り、理算として思されたリーディングの内容をまとめ、母語者同士で議論を
授業の内容(概要)	į			転授業の形式を取り、課題として出されたリーディングの内容をまとめ、受講者同士で議論を は通して内容を深く理解していく。さらに、受講者のこれまでの自分の英語学習あるいは教育現場
<u> </u>	での経験も振り返りながら、英			
	第一言語翌温と丹語転移につい	て其礎的か知識を息に	つける また 自分の英語	*習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、日本語の特徴がどのように英語習得に影響をし
授業の目的	 			「このないな教育が多くの経験で減り返りなから、日本品の特徴がこのように突ゅ自特に影響をし 「こついて考察し、課題を見つけ出す力を養う。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1と
	DP3の達成に関与している。			
到達目標	第二言語習得と母語転移につい	て基礎的な知識が身に	ついている。また、日本語の)特徴がどのように英語習得に影響するのか、認識し、説明することができる。さらに、受講者相
扩连口标			論的な考え方について考察を	とし、課題を見つけ出す力をつける。
	第1回 イントロダクショ	ン		
	クラス運営、課題、テキスト等	について説明する。		
	第2回 第二言語習得研究	乙一理論と実証 (1)		
	第二言語習得研究のこれまでの	麻中と理論的か変に	ついて 振り返る	
	第3回 第二言語習得研究		て老さる 特に 「対照分割	T仮説」と「部分転移仮説」「完全転移仮説」に焦点を当てる。そして、自分の英語学習あるいは
	:			17次記」と「ログデムが次記」「元主教が次記」に無点で当てる。ことで、自分の交話子目のないは、5か、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 音声・音韻の習得			
	ł			まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響
	が出ることが予測されるか考え 第5回 音声・音韻の習得		可または多万向に行われる	打論を伴う授業)
			象とした実験について学ぶ	(Sheldon & Strange, 1982; Brown, 1998, 2000; Ohta, 2004, など)。実験の手法や結果につい
	て学生同士で議論し、その後教	員を含めて議論する。	(双方向または多方向に行わ	れる討論を伴う授業)
	第6回 形態素の習得(1)			
	:			言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いたも多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 形態素の習得(2)			
	英語の形態素の習得に関する日	本語母語話者を対象と	した実験について学ぶ(Ina	gaki, 2014; Umeda, 2016; Wakabayashi, 1997; Yusa et al., 2014, など)。実験の手法や結果
	について学生同士で議論し、そ		する。(双方向または多方向	に行われる討論を伴う授業)
授業計画	第8回 音声・語彙の習得 ここまでに学んだ内容に関して		うな課題があるかを考える。	それぞれの発表内容と研究課題について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双
	方向または多方向に行われる討			
	第9回 文の習得 (1)			
	ł			D言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違い
i !	によりとのよっな影響が出るご 第10回 文の習得 (2)	とか予測されるか考え	、議論していく。(双万回ま)	たは多方向に行われる討論を伴う授業)
		語母語話者を対象とし	た実験について学ぶ(Hirak	awa, 1995; Oshita, 2000; Hawkins & Hattori, 2006; Umeda, 2005, 2006, など)。実験の手
i I		論し、その後教員を含	めて議論する。(双方向また	は多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 意味の習得 (1)		カラ 吐制 ラフ oº 5 し + \ し	** について巻で、フゎアもの三年の杜像について、土ずは巻まれて不祥範し、フの必動皇も会は
	 			ご) について学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含め試論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 意味の習得 (2)			
	英語の代名詞・再帰代名詞の習	得に関する日本語母語	話者を対象とした実験につい	ヽて学ぶ (Hirakawa, 1990; Akiyama, 2000; 吉村・中山, 2014; など)。実験の手法や結果につ
	いて学生同士で議論し、その後	教員を含めて議論する	。(双方向または多方向に行	われる討論を伴う授業)
	第13回 意味の習得 (3) 英語の時制・アスペクトの習得	に関する日本語母語ギ	者を対象とした宝畭について	学ぶ (Gabriele & Martoharjono, 2005; Gabriele, 2009; など)。実験の手法や結果について学
	英語の時間・アスペクトの首件 生同士で議論し、その後教員を			
	第14回 文法・意味の習得			
	i		うな課題があるかを考える。	それぞれの発表内容と研究課題について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双
	方向または多方向に行われる討 第15回 まとめ	論を伴つ授業)		
İ		o.h	*P_*P+ ^ · - \!	□ 5学 5 Δ フェンノ (2日 ナカーナキ・14 カ ナカ・1ー/-1-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-
<u> </u>	技業で子んたことをまとめ、そ	のiM谷いついて、受講 	右回工™教員を含めて授業で	-議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
テキスト	なし			
<u> </u>	<u> </u>			

テキスト購入方法	なし
参考文献	授業中に指示する。
成績評価の方法	発表50% 、レポート50%
教員への連絡方法	Eメール、Google Classroom、ボータルの何れかを使い、メッセージを送ってください。
履修上の注意	授業中に指示する。
授業外学修情報(予習復習	1学期の授業外学修時間 合計30時間(授業予習・復習, 課題の解答, レポート/発表の準備・執筆)
学生へのメッセージ	授業中に積極的に議論に参加できるように、これまでの自分の英語学習や教員として観察したことなどを授業の前にしっかり考え、授業中にシャアできるようにしておいてくださ い。

### 1985年 1985年	講義科目名称	応用言語学研究VI		副題	Reflective Teaching Practices			
### 12 日本								
### 12		•						
### 1987	開講期間	配当年	単位数	科目必選区分				
### 15		1 • 2	2単位	必修選択				
接受けない。								
### 1997年 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	神谷 信潢	i						
### 1997年 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	本語コンニーム シェ ン	- 禁業						
おりません。 では、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この		ノ 博我						
部が開発する中の人に大きない。 は、日本のでは、日本の	かいファール							
部が開発する中の人に大きない。 は、日本のでは、日本の		実務経験のある数員等による授	業科目	 1				
日本知知 「日本知知 「日本知知 「日本知知 「日本の一人ですますでもの知知 「日本の一人でするできるのである。 「日本の一人でするできるのである。 「日本の一人ですっています。」 「日本の一人で		ļ						
おおまれる		<u> </u>						
日本は、 日本は								
回り、日本の表現のでは、このでは、日本の表現のでは、日本の表現のでは、日本の表現のでは、日本の表現の主ない。このでは、日本の表現して、日								
2015年2日 1975年2月7年2月7日 1975年2月7日 19	四类	授業で使用する言語						
日本の地 アフィップラーニング アクス・ファース アクス・ファース アクス・ファース アクス・ファース アクス・ファース アクス・ファース・アクス・ファース・アクス・ファース・アクス・アクス・アクス・アクス・アクス・アクス・アクス・アクス・アクス・アク	1文未作(表)	□日本語						
でクライティーング 電子フィーフィーング音を表面し入れている。 本型がの様。 工業技術所でも確々なけたソウを使れ、それらを自分の形式で発性したものも設定し、設定がであるいに見合い、その特別・利して苦し合う。それらを違して、収 がかった。 工業技術のでは関係でも使々なけたソウを使れ、などの自分の回数で発性している。 と思わらは、またしては立ま物とは、そのがおいましたされた。 がありの場では、日本の場では、このはないまたとしていまった。 と思いらは、大きないでは、このはないまた。 その他は、このではないでは、またしていまった。 このではは、「実体を関係していまった。 を基づり場 工具は関係でも使くないと、大きがいまった。 このではないでは、このでは、またしていまった。 このではないまた。 こ		<u> </u>						
理が30年、プラーニングを含まるようなでいる。 製造の78(概数) がかた、土地田田田		□その他						
理が30年、プラーニングを含まるようなでいる。 製造の78(概数) がかた、土地田田田				 				
関連の内容(同2)		<u> </u>						
が設定の所名(観) の対し、最近関係に関する様々なととうできまた。不可能な対象によって、実施を受いませましている。というない。関係が対象に関いている。というない。対象が必然と、自然を関係している。というない。といない。とい								
り、最近の経過を受けたり間知の音をしたり、気が内部のよいは多か用に下からる姿を表現している。した「音楽報道」と応えているように、この原像は「真影楽器」と、変更がの第二言語語は、質する様々はトピックについて考えし、その確定を行い。このになり取りでいてことより理解を認める。 数目の	福業の内容(青年)	÷						
接触の目的 対象性が企工業計画機に関する様々なトピックについて学年に、その実施を行い、さらに取り取りを行ったことより発酵を集める。 対象性が企工業計画機関に関する様々なトピックについて学年によって、今後の目が自身の実施を開き、アナンプに関ロできるようになる。 第1日 Precoduction 現在分が対面にしている。者が見らかける第二面接触を開き、ドピックにはどのようなものがあるから学生を書き合とう。その後、コース等の機能と、それぞれの位文では、 が他の地域を出ませた。機能にプレビックによっては関います。との後、現内が出まったの様と、カカルはよったが低いられるが機能と、それぞれの位文では、 が他の地域を出ませた。機能にプレビックが最も実施し、ビディをよって、その後からが関いては関いて、他が学生と呼べてカカッションとリードする。その後、第二面接触では関いていた。 第2日 Decorption のでは、対象性がレンスとグラは主要ないとピディをよってリースとの様と、現内を実施したよる構造、次の地域とは多か低いられるが関心を行ってカカッションをリードする。その後、第二面は	技業の内容 (概要)	<u> </u>						
関連回路 対理がの第一素質器側に関する様々なドピッグについて学ぶことによって、今後の自分自身の実施学習やティーテングに対してきるようになる。 対理								
対対対域 を対かった。 「おりの	授業の目的	が手に3~か一日四目待に関する·	はくゆし ニックについ	こっ示し、この大成を11い、	こうに思うなうと11つここにのツ土所で水がる。			
図目の「Production 図目のでは、	ムボツロロリ							
第1日 Introduction REGIONTARY している。若知いにおける第二世語語のに関するトピックにはどのようなものがあるかを学生側見て描し合う。その後、コースを4の程能と、それぞれの原立で数がの認意を使用する。最後にプレビンテーションの別し当てを決める。(実施を終したと対定、方の非常に多か向に行われる計画を持つ思定) 現2日 Instemon BEの学まが、日かが開かしたリスーンが高度を減したビデオをシェナルで、その活動の間から程度を設めし、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世語語の形式からそうとの名を映まりメスーンが指摘にレビデオをシェナルで、その活動の目から目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世語語の形式からそうとの名を映まりメスーンが目的について説明する。(保育業務員による形式、次の時または多方的に行われる計画を中の理念) 第3日 Regions BEの学まが、日かが開かにレリーディング画を学立したビデオをシェアして、その活動の目から目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世語語の形式からようなの表がありますが、自分が開かしたメーセージで得受診断を実践したビデオをシェアして、その意動の目から目標を表別し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、東三世紀 Regions (Proposition Special) BEの学まが、日かが開かにレス・モージで保険が誘発を実践したビデオをシェアして、その意動の目から目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世紀を紹介が行からようなの主義を対してレーディング(やり取りが高格学型の上で)で、この表動の目から目標を表別し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世紀を紹介が行からようれら必要的なフェーシッグので、(Proposition Special) BEの学まが、日が外間にレス・ビージで、(Proposition Special) Region Special Spec		教室内の第二言語習得に関する	様々なトピックについて	て学ぶことによって、今後の				
関係自動を受けている。教室が上がける第二本語論的に関するトとついてはどったなどのからなどを実施的では、よう、その後、コースを単の機能と、それでは、できた。 別名の観音を受ける。教師には、ことが理解したコンプは関係では、大き子がとして、その活動の関係では関係には、おります。というないでは、また。 田田の子は、おりが理解したリンニプは関係では、では、関係する。(実際機能とよる原文、双向はまたは多方側に行われる記憶を伴り開写) 四名の様式からようにも影響的はリスニンプは関係でいて関係する。(実際機能とよる原文、双向はまたは多方側に行われる記憶を伴り開写) 四名の存状からようにも影響的はリスニンプは関係でいて関係する。(実際機能とよる原文、双向はまたは多方側に行われる記憶を伴り開写) 四名の存状からようにも影響的はリスニンプは関係でいて関係する。(実際機能とよる原文、双方的または多方側に行われる記憶を作り開写) 四名の存状からようにも影響的はリスニングでは、大きないて関係する。(実際機能とよる原文、双方的または多方側に行われる記憶を作り開写) 四名の存状からようにもの影響的はスピーキング 保存が認定を描したピデオをシェアして、その意動の目的で目標を割削し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世間の場所の作がからまなられる影響的はスピーキング (全)を関する。(実際機能とよる原文、双方向または多方側に行われる記憶を作り開写) 四名の存状が、自分が理解したアルニングでは、対象を実施したピデオをシェアして、その意動の目的で目標を割削し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世間 はの紹介からようらい 法拠別はスピーキング (や)を別のの高値について説明する。(実際業別はよる原文、双方向または多方側に行われる記憶を作り開覧) 四名の存状からようら、対象的はスピーキング (や)を別とのでは、またまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまた	到達目標	Man and Manual Mickly & O.			The state of the s			
関係自動を受けている。教室が上がける第二本語論的に関するトとついてはどったなどのからなどを実施的では、よう、その後、コースを単の機能と、それでは、できた。 別名の観音を受ける。教師には、ことが理解したコンプは関係では、大き子がとして、その活動の関係では関係には、おります。というないでは、また。 田田の子は、おりが理解したリンニプは関係では、では、関係する。(実際機能とよる原文、双向はまたは多方側に行われる記憶を伴り開写) 四名の様式からようにも影響的はリスニンプは関係でいて関係する。(実際機能とよる原文、双向はまたは多方側に行われる記憶を伴り開写) 四名の存状からようにも影響的はリスニンプは関係でいて関係する。(実際機能とよる原文、双向はまたは多方側に行われる記憶を伴り開写) 四名の存状からようにも影響的はリスニンプは関係でいて関係する。(実際機能とよる原文、双方的または多方側に行われる記憶を作り開写) 四名の存状からようにも影響的はリスニングでは、大きないて関係する。(実際機能とよる原文、双方的または多方側に行われる記憶を作り開写) 四名の存状からようにもの影響的はスピーキング 保存が認定を描したピデオをシェアして、その意動の目的で目標を割削し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世間の場所の作がからまなられる影響的はスピーキング (全)を関する。(実際機能とよる原文、双方向または多方側に行われる記憶を作り開写) 四名の存状が、自分が理解したアルニングでは、対象を実施したピデオをシェアして、その意動の目的で目標を割削し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世間 はの紹介からようらい 法拠別はスピーキング (や)を別のの高値について説明する。(実際業別はよる原文、双方向または多方側に行われる記憶を作り開覧) 四名の存状からようら、対象的はスピーキング (や)を別とのでは、またまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまた		第1回 Introduction						
国の子生からかけからいた。このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、		現在自分が課題としている、教	室内における第二言語	習得に関するトピックにはる	どのようなものがあるかを学生相互で話し合う。その後、コース全体の概要と、それぞれの授業で扱う			
四当の学生が、自分が開いたりスニング海路を実践したビディキシェアルで、その活動が目的で目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二百届日の研究から考えられる動物的以上之上が高地で表出したビディをシェアルで、その活動が目的で目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二百届日の研究から考えられる動物はシーディング海路を表出したビディをシェアルで、その活動が目的や日間を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二百届日の研究から考えられる動物が出した。 「日本日		内容の概要を説明する。最後に	プレゼンテーションの	割り当てを決める。(実務家	教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
の研究から考えられる効果が促じ、エング語彙でいて説明する。(実際業務による例案、双方向または多方向に行われる前途を行う課金) 第3回 「Souting 日かけ無難しにリーティング音を実践したビデオをシェアして、その他の目的や日離を投削し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第三番店 部の研究から考えられる効果がなり、ナイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイフラン・アイングラム・アイフラン・アイ		第2回 Listening						
国当の Neudong Hardward Le During Le Entity Manual Le Ent		担当の学生が、自分が撮影した	リスニング活動を実践し	したビデオをシェアして、マ	その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得			
用地の学生が、他分野部間にリーディング活動を実施したビデタをシェアルで、その活動の目的や目標を設明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二三時間の分野大の支入される効果的とリーディング機能でいて記録する。(定義業費員による程果、双方向または多か向に行われる計論を作う理書) 第19		の研究から考えられる効果的な	リスニング指導についっ	て説明する。(実務家教員に	よる授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
図の研究から考えられる機能が出来る。 「日かず野歌した文化ーキング(株式)館を表現したどうぞもシェアして、その活動の目的では関を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第三国語画の研究から考えられる機能がなど、として、その活動の目的では関を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第三国語画の研究から考えられる機能がなど、ヒーナング(株式)館を実践したビデオをシェアして、その活動の目的では関を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第三国語画の研究から考えられる機能がなど、ヒーナング(株式)の場合と大きが、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では		第3回 Reading						
語名の国 Speaking (Speach) 田田の予生か、自分が無いたスピーキング (栄養)が悪た変更したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、至三田田園の川次から考えられる効果的などニャング (栄養)が順について説明する。(実務家教員による程業、双方向または多方向に行われる別論を伴う程業) 第5回 Speaking (Interaction) 田田の予生か、自分が顕彰したプレーキング (ヤ)取り)活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世部間後の研究から考えられる効果的などピーキング (ヤ)取り)接着について説明する。(実務家教師による程業、双方向または多方向に行われる対論を伴う程業) 第5回 Speaking (Interaction) 田田の予生か、自分が顕彰したプレーキング (ヤ)取り)接着を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世前のの研究から考えられる効果的なプイティング海等ので、(実務家教育による程業、双方向または多方向に行われる対論を伴う程業) 第5回 Speaking (Interaction) 田田の予生か、自分が選彰した文部を表える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世前の研究から考えられる効果がなど地指的線について説明する。(実務家教員による程業、双方向または多方向に行われる計論を伴う程業) 第5回 Vocabulary 田田の学女が、自分が選彰したが自を表える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二世前級の研究から考えられる激素がは上がより表していて説明する。(実務家教員による程業、双方向または多方向に行われる計論を伴う程業) 第1回 Teachet は他 西田の学女が、自分が選彰した日本の主ない正式明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる計論を伴う理業) 第1回 Teachet は他 西田の学女が、自分が選彰した日の時間にいえ可ないこれがよう方向に行われる計画を伴う理業) 第1回 Teachet は他 西田の学女が、自分が選彰した日の時間を説明し、他の学生とのディスカッショ・をリードする。その後、第二語語画の研究から考えれる影響がはディーチャ・トークのビデオをシェアして、その意動を表践した他デオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ・をリードする。その後、第二語語解の研究から考えれる効果がは正式の情報と認明し、他の学生とのディスカッショ・をリードする。その後、第二語語解の研究から考えられる効果がは正式の情報と認明し、他の学生とのディスカッショ・をリードする。その後、第二語語解したがいて説明する。(実際家教員による課金、双方向または多方向に行われる計画を使用がはディーチャン・トークについて関係を表明したものでよります。(実際家教員による課金、双方向または多方向に行われる計画を定明し、他の学生とのディスカッショ・をリードする。その後、第二語画解の研究から考えられる効果なは正式の情報といていていていていていていていていていていていていていていていていていていて		担当の学生が、自分が撮影した	リーディング活動を実置	浅したビデオをシェアして、	その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習			
国語の学生が、自分が無限したスピーキング(保書)無数を実践したビディをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二指導階の研究から考えられる効果的なスピーキング(保書)指摘で、大き機能のでいて、できまり、自分が無限しただと「キング(内型)、2000年を担じて、これでは、実際業務員による提案、双方向または多方向に行われる対流を作う規葉) 第5回 Speaking (Interaction) 担当の学生が、自分が瞬形したスピーキング(中)取り、2000年を担じたビディをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二指導 Monitary は、自分が無限したの場合で、2000年を分別では、自分が振りに行われる対流を伴う授業) 第6回 Writing 担当の学生が、自分が勝手したライティング指数を実践したビディをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 RoomRyから考えられる必要がはライティングが最終支援したビディをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 RoomRyから考えられる必要がは、自分が振りについて説明する。(実際業務員による授業、双方向または多方向に行われる対流を伴う授業) 第7回 Crammar 日記の学生が、自分が振りたが表する心能を考えるに参考を支援したビディをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 RoomRyから考えられる必要がは関係について説明する。(実際業務員による授業、双方向または多方向に行われる対流を伴う対策) 第9回 Pronunciation 担当の学生が、自分が振りた方角を考える活動を実践したビディをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 RoomRyから考えられる必要がは大き有が関係したでわれておける対象を伴う対策) 第10回 Teacher talk 担当の学生が、自分が振りた方向と考えられる効果のな目標の表が表がしたのでけれる対象を対しまり向に行われる対流を伴う対策) 第11回 Col corrective feedback 担当の学生が、自分が振りたディーチャ・ト・トクのビディをシェアして、その意動の目を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語目のの研究から考えられる効果がな日間を変更したビディをシェアして、その活動の目的や目標を変更し、他の学生とのディスカッとは・シリードする。その後、第二目記書のの研究から考えられる効果がな日間を実践したビディをシェアして、その活動の目的や目標を変更し、他の学生とのディスカッとは・シリードする。その後、第二言語目のの研究から考えられる効果がは日間を実践しているではないでは、実践を実践したどの味られていていていていていていていていていていていていていていていていていていてい		得の研究から考えられる効果的	なリーディング指導にて	ついて説明する。(実務家教	員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
芸芸芸術の形式から考えられる効果的なスピーキング (特別 時間について説明する。(実際素質点による程金、双方向または多力向に行われる計論を伴う理念)		第4回 Speaking (Speed	ch)					
お言語 Speaking Interaction) 日本の子生という。自分が開始したとしておりたりためらり消動を実践したとデオをシェブリて、その活動の目的や目標を設明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語画像の研究から考えられる効果的なスピーキング(やり取り)活動を大きしていて説明する。(実務実教員による程果、双方向または多方向に行われる対論を作う程準) 第5回 Winting 日本の学生が、自分が開始したライティング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 帯の研究から考えられる効果的なフィティング指揮について説明する。(実務実教員による程果、双方向または多方向に行われる対論を伴う程準) 第7回 「Grammar 田地の学生が、自分が開始した支流を使える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのティスカッションをリードする。その後、第二言語 神の研究から考えられるの原的な法法事について説明する。(実務実教員による程果、双方向または多方向に行われる対論を伴う程準) 第8回 Vocabulary 田当の学生が、自分が開始した対応を見える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 特の研究から考えられるの原の理解する。(実務実践しよる程果、双方向または多方向に行われる対論を伴う程準) 第9回 Pronunciation 知らの学生が、自分が開始したの音を表えぶ動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 待の研究から考えられるの原のな発音機に入して表がまと力でして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語の研究から考えられる効果のな発音機に入りますとエアレて、その活動の目的い目標を説明し、他の学生とのディスカッショをリードする。その後、第二言語語の研究の決定を対していて説明する。(実務実践員による程果、双方向またはろか向に行われる対論を伴り程準) 20つ このでは、自分が開始したディーチャー・トークについて説明する。(実務実践自による程果、双方向または多方向に行れる対論を伴り程準) 第1回 「Jour Interaction (まのまた) (まのま) (まのまた)		担当の学生が、自分が撮影した	スピーキング (発表)活	動を実践したビデオをシェス	アして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二			
田田の学生が、自分が開影した文化ーキング(やり取り)語彙と変化したビデオをシェアして、その意動の目的や目標を契明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音語 神の研究から考えられる効果的なスピーキング(やり取り)指導について設明する。(実務事業員による授業、双方向または多方向に行われる対論を作う授業) 第6回 Writing 旧当の学生が、自分が開影したテクティング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音語 神の研究から考えられる効果がなディティング語を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音語 神の研究から考えられる効果的なプライナング語をで表して、皮膚素教員による授業、双方向または多方向に行われる対論を作う授業) 第7回 Grammar 別当の学生が、自分が開影した文法を募える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音語 神の研究から考えられる効果的な対策特別でして説明する。(実施業教員による授業、双方向または多方向に行われる対論を作う授業) 用当の学生が、自分が開影した単年を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音語 神の研究から考えられる効果的な対策指揮でついて説明する。(実施業教員による授業、双方向または多方向に行われる対論を作う授業) 第1回 Pronunciation 旧当の学生が、自分が開影した音を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音語神の研究から考られる効果的な影響と大きが同じて行われる対論を作う授業) 第1回 Ord corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した正説の機能しに対するゴェフィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッショをリードする。その後、第二音語神の研究から考えられる効果的な活動の意識により呼ばいだけないでは明する。(実施業教育による授業、双方向または多方向に行けれる対当をより規定) 第1回 Ord corrective feedback 知らの学生とのディスカッショをリードする。その後、第二音語神の研究から考えられる効果的な活動の意識により呼ばいだけで、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッショをリードする。その後、第二音語神の研究から考えられる効果的な活動の意識により呼ばいだけでパセンエーアといこれを認めていまりませまが表別でいまりませまが表別では、対したいでは明する。(実施業教育による授業、双方向または多方向に行けれる知識を生り受力。 日の別 Written corrective feedback 知らの学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音語神の研究から考えられる効果的な活動の意識によりする訂にアイドバックについて説明する。(実施業教育による授業、双方向または多方向に行けれる対しためでは、実施を発展したどデオをシェアして、その活動の目的や目標を投明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二音音音のの研究から考えられる効果的な活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を提供したどデオをシェアしないませませまが表別では、実施を開始したいでは、実施を関するとならなどのでは、またりまでは、またりまたりまでは、またりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりま		言語習得の研究から考えられる	効果的なスピーキング	(発表)指導について説明する	る。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
第三国語書機の研究から考えられる効果的なスピーキング (やり取り)指導について説明する。(実際業務員による規葉、双方向または多方向に行われる討論を作う規葉) 第6回 Writing 知当の学生が、自分が選挙したライティング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語・書の研究から考えられる効果的なライティング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語・場の研究から考えられる効果的なシェ茂を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語・場の研究から考えられる効果的なシェ茂を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語・場の研究から考えられるが表が認識が出まれていて説明する。(実際業教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を作う授業) 20回 Pronunciation 担当の学生が、自分が選挙した発音を表える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語・場の研究から考えられる影響が放露を指揮していて説明する。(実際業教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を作う授業) 第5回 Pronunciation 担当の学生が、自分が選挙した美報を表え活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語書編の研究から考えられる影響が対象を指揮していて説明する。(実際業務員による授業、双方向または多方向に行われる討論を作う授業) 第1回 Teacher talk 担当の学生が、自分が選挙したディーチャ・・トークのビデオをシェアして、その活動の目ので目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語書編の研究から考えられる影響がは出版の記事に以対する訂正フィードバックについて説明する。(実際業教員による授業、双方向または多方向に行われる計論を使う) 第1回 Written corrective feedback Mainor エルラ・その後、第二言語書編の研究から考えられる影響がは多れたいのがは対するが正フィードバックについて説明する。(実際素教員による授業、双方向または多方向に行われる対象を受け、自分が選挙した事態の研究から考えられる影像の対象を回路を回路に対する訂正フィードバックについて説明する。(実際素教員による授業、双方向または多方向に行われる対象を受け、自分が選挙した事態の研究から考えられる影響がはためが自然の対象を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショとリードする。その後、第二言語画像の研究から考えられる効果的に対する対象と対象と表したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショとリードする。その後、第二言語書像の研究の考えられる効果のはなどのに対する対象と対象と表したどデオをシェアして、その活動を対象といかに対象を表したと思する。 第1回 Implict knowledge, explict knowledge, 8 automatization 担当の学生が、自分が関係したるで表に対しため、第1回 Preparation for demonstration isson 学んできため、第二言語書像の研究と考えられる影響がなどのできために対すると呼びなどのですべきために対象と表しためまする。 第1回 Demonstration isson 学んできために対象と表しために対象を表しために対象と表しまないまれために対象と表しまないまれために対象と表しまないまれために対象と表しまないまれために対象と表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまれために対象と表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象と表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象と表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないまないまれために対象を表しまないまれために対象を表しまないま								
毎日 Witting 国国の学生が、自分が開影したライティング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語		担当の学生が、自分が撮影した	スピーキング (やり取り))活動を実践したビデオを	シェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、			
担当の学生が、自分が観彩したライティング活動を実頂したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 初の研究から考えられる効果的なライティング情報について説明する。(実務業教員による授業、双方的または多方的に行われる対論を伴う理常) 第7回 「Grammar 担当の学生が、自分が振彩した文法を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 場の研究から考えられるの理解など法目線について説明する。(実務業教員による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う理学) 第8回 Vocabulary 担当の学生が、自分が振彩した単語を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 場の研究から考えられるの理解な実践自体とビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 場の研究から考えられる気理解な実質は最高について説明する。(実務業教員による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う理象) 第1回 Teacher talk 担当の学生が、自分が撮影したティーチャー・トークのビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考。 られる効果的な実質は、自分が撮影したティーチャー・トークについて説明する。(実務業教員による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第11回 Cornective feedback 知識の学生が、自分が撮影したこ前の問題に分するびエフィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語書例の研究から考えられる効果的な口語の問題にいまするエアレて、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語書例の研究から考えられる効果的な口語の情報になったアイスカッションをリードする。その後、第二言語書例の研究から考えられる効果的な記述を記述しまれてリアイトバックについて説明する。(実務業教員による授業、双方向または多方向に行われて対論を作う表) 第1回 Demonstration lesson & Conclusions 第1回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業実践は、授業を参戦する。その後計画を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学部やディーチングにどのように生かしていかか 第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業実践は、授業を参戦する。その後計画を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学部でディーチングにどのように生かしていかか 特になし、 特になし、			れる効果的なスピーキ	ング (やり取り)指導につい	て説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)			
日本の研究から考えられる効果的なライティング指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第7回 Grammar 担当の学生が、自分が開影した文法を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語は例の研究から考えられる効果的な交換に関いて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第8回 Vocabulary 担当の学生が、自分が開影した単語を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語は例の研究から考えられる効果的な対理的である。 第9回 Pronuciation 担当の学生が、自分が開影した実育を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語は初の研究から考えられる効果的な発育指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第10回 Teacher table 第10回 Teacher table 第10回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が開影したライーチャー・トークについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が開影した日添の開催いた考えられる効果が良いますの選上でメートが、少りを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショとリードする。その後、第二言語書例の研究から考えられる効果がな目前がよい記するままでメートが、少りたこのようにも研究 (実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる対象を体が決定 Important Harmymants 未見の問題をいまするます。または、実施を表別によっていまが明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる対象を体が決定 Important Harmymants 未見の制能をいまするまでは、実施な教員による授業、双方向または多方のに行かまりましまが表しましましましましましましましましましましましましましましましましまし								
第7回 Grammar 日田の学生が、自分が撮影した文法を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 のの形式から考えられる効果的な文法指導について説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を件う授業) 担当の学生が、自分が撮影した単語を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 のの研究から考えられる効果的な組織指摘について説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第9回 Pronunciation 担当の学生が、自分が撮影した発音を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 みの研究から考えられる効果的な発音指導について説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第10回 Teacher talk 担当の学生が、自分が撮影した元年・トークのビデオをシェアして、その意思を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語の研究から考、51名効果的なディーチャー・トークのビデオをシェアして、その意思を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語の研究から考、51名効果的なディーチャー・トークについて説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第11回 Oral Corroctive feedback 担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二語語語の研究から考えられる効果的な主記の問題によ対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる知識を担当の学生が、自分が撮影した場所の対象と対しの影響と対していている影響の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二語語語の研究から考えられる効果的な場示的知識と明示的知識の定義や自動化を目指した活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生のディスカッションをリードする。その後、第二語語語の研究から考えられる効果的な場示的知識には対する訂正フィードバックを与える(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる知識をといっていまのまたは多方向に行われる知識をといっていまのまたは多方向に行われる知識をというでは、日本の主には、アドログにより、日本の主には、アドログに対しているの語を実践したどデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二語語の研究から考えられる効果的な場合に対していまの表によりによりました。 第13回 Demonstration lesson 「中国の学生が、自分が撮影が対しために対していまのまたが開業による研究を実践が出まった。 第13回 Demonstration for demonstration lesson 「中国の学生が、自分が撮影が表に対していまいと思いました。 第13回 Demonstration for demonstration lesson 「中国の学生が、自分が撮影が表に対していまいと思いました。 第13回 Demonstration for demonstration lesson 「中国の学生が、自分を表が表に表しました。例は、これによりによりによりによりに表しました。 第13回 Demonstration for demonstration lesson 「中国の学生が、自分が関係と呼吸が表によりました。 第13回答を表に表しましため、表によりました。 第13回答を表に表しましため、表によりましため、表に表しましため、表によりましため、表によりに表しましため、表によりに表しましため、表によりによりによりによりに表しましため、表によりによりによりによりに表しましため、表によりによりによりによりによりによりに表しましため、表によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに		!						
照当の学生が、自分が撮影した文法を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を設明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 機の研究から考えられる効果的など法指導について説明する。(実務家教育による授業、次方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第8回 Vocabulary 即当の学生が、自分が撮影した単語を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのティスカッションをリードする。その後、第二言語 場の研究から考えられる効果的な単語指導について説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第9回 Prounciation 担当の学生が、自分が撮影した発信を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのティスカッションをリードする。その後、第二言語 場の研究から考えられる効果的な発音指導について説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第10回 Teacher talk 担当の学生が、自分が撮影したディーチャー・トークについて説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を伴う授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影したごの語彙がは、音が見まる。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行われる対論を学り授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影したごの語彙がはディーチャー・トークについて説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行 第12回 Written corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した自然の問題にに対する対正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語音像の研究から考えられる効果的な事態が見かいまする訂正フィードバックについて説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行 第13回 Implicit knowledge、explicit knowledge、Ra automatication 担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識と所示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教育による授業、双方向または多方向に行 第15回 Demonstration lesson デオスト 第15回 Demonstration lesson & Condusions 研究学を実践し、授業を参観する。その後対議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学音やティーチングにどのように生かしていくのか 第15回 Demonstration lesson & Condusions 研究学を実践し、授業を参観する。その後対議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学部やティーチングにどのように生かしていくのか 特になし。 特になし。			なライティング指導にて	ついて説明する。(実務家教	員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 			
関連計画 「関連の研究から考えられる効果的な文法指導について説明する。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第8回 Vocabulary 担当の学生が、自分が課態した単語を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語 例の研究から考えられる効果的な単語推導について説明する。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第9回 Pronuccition 担当の学生が、自分が課態した発音を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語 例の研究から考えられる効果的な発音推得について説明する。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第10回 Teacher talk 担当の学生が、自分が課態したディーチャー・トークのビデオをシェアして、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的な定して、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的なに動かった。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 Trail Orrective feedback 担当の学生が、自分が課態した回途の問題。に対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的なに動物を実践したディスカッシにフルで、世の場動が走り中的では呼を支援がい、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的な選手が対象が実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的な選手が対象が変更を対象したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的な選手が対象が支援したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的な選手が対象が変更を表したどデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果のな正常の問題に対する可能を表したビデオをシェアして、その活動が上で呼を支援する。(実務素教員による授業、双方向または多方的に行われる対象を表したビデオをシェアして、その活動が上が対象を表したビデオをシェアして、その活動が上では多なが変更によっていました。 第13回 Preparation for demonstration lesson 学れてきたことを実践する最後の研究が長者の対象を持ち寄り、内容について対論をしたビデオを変更したビデオを表したビデオを含える研究を表しまれていました。 第13回 Demonstration lesson をのまれていました。 第14回 Preparation for demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていまれていまれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていましためでは、表情を表れていましためでは、まれていました。 第15回 Demonstration lesson をのまれていまれて								
現場の研究から考えられる残害的な、		i						
担当の学生が、自分が膨影した単語を教える活動を実践したビデオをシェアレて、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 網の研究から考えられる効果的な単語指導について説明する。(美務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を件う授業) 第9回 Pronunciation 担当の学生が、自分が膨影した発音を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 網の研究から考えられる効果的な影音指導について説明する。(美務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第1回 Teacher talk 担当の学生が、自分が膨影したディーチャー・トークのビデオをシェアして、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語語構の研究から考られる効果的なディーチャー・トークについて説明する。(美務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が膨影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語語機の研究から考えられる効果的な正師の問違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行 お12回 Written corrective feedback ドロッチェル・ロカル 随場のこれの対象がしまれる対象に対象に限めらなと概念にプイをフェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語語例の研究から考えられる効果的な起源がに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行 するというである。その後、第二言語語の研究から考えられる効果的な暗示が知識と明示的知識の定義や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ 第13回 Preparation for demonstration lesson デオスト 第15回 Demonstration lesson 多 Condusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後対議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのから 等になし。 特になし。 第15回 Preparation for demonstration lesson 研究授業を実践し、授業を参観する。その後対議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのから			な文法指導について説は	明する。(実務家教員による	授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 			
操の研究から考えられる効果的な単語指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第9回 Pronunciation 担当の学生が、自分が撮影した発音を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語 接の研究から考えられる効果的な発音指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第10回 Teacher talk 担当の学生が、自分が撮影したティーチャー・トークのビデオをシェアして、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考、られる効果的なティーチャー・トークについて説明する。(美務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ:をリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(美務家教員による授業、双方向または多方向に行 第12回 Written corrective feedback	400 MARS 1 700							
第9回	投業計画	•						
担当の学生が、自分が撮影した発音を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語			は早語指導について説	ngの。(美務豕教員による	授耒、メメスクiPはたば多かiPiに行われる訂論を伴う授業) 			
網の研究から考えられる効果的な発音指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第10回 Teacher talk 担当の学生が、自分が撮影したディーチャー・トークのビデオをシェアして、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考)られる効果的なティーチャー・トークについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した口頭の問題にに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の問題いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行事12回 Written corrective feedback 担当のチェガ・ロガア脚からと単常が同様の研究から考えられる効果的な筆記の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行事12回 Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した時気の関連と明示的知識と明示が知識と明示が知識の定者で自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行れる計論を使う授業) 第13回 Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した暗気的関連と明示的知識の定者で自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向まが14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業業を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後対議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学書やティーチングにどのように生かしていくのから 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。				M. 4. 17 - 27 - 1				
#10回 Teacher talk 担当の学生が、自分が撮影したティーチャー・トークのビデオをシェアして、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考 られる効果的なティーチャー・トークについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 帯11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行 第12回 Written corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影したご思慮との回域でに対するfireフィードバックに力を調整を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な筆紀の間違いに対するfireフィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行 カス起論を伴う実態) 第13回 Implict knowledge, explicit knowledge, & automatization 田田の学生が、自分が撮影した場所の知識と明示的知識と明示的知識と明示的知識の定着で自動化を目指した活動の目的や目標を説明し、他の学生とのティスカッショ ンをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま 第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業案を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ 第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やディーチングにどのように生かしていくのから 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。								
担当の学生が、自分が撮影したティーチャー・トークのビデオをシェアして、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考られる効果的なティーチャー・トークについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行第12回 Written corrective feedback ロージャエル・ロガル 動物に対象を取り出版していますの情報と呼びできません。第12回 Written corrective feedback ロージャエル・ロガル 動物に大き事故の関係に入りする打正フィードバックを行う活動を実践したビデオをフェアして、その活動の目的や目標を説明し、他のデ生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な筆記の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる対論を生き、自分が撮影した暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動で実立して、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業案を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかな 特になし。			は充音指導について説明	ngの。(美務豕教員による	授耒、XXカ内まには多方向に行われる訂論を伴う授業)			
られる効果的なティーチャー・トークについて説明する。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショ をリードする。その後、第二語語書例の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行第12回 Written corrective feedback 担当のチェル、日カか 歯跡とのに手車のが回域やに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行れる討論を使う授業) 第13回 Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識と所完から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定者や自動化を目指した活動を可能の目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語書例の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定者や自動化を目指した活動について説明する。(実務素教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業業を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務素教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのから 特になし。 特になし。			= / Th 1 -	カビニナセンニコ! マーフ:	n音向も説明! Mの夢生レのごフォッションも!! ドナフ フネ@ 佐一三年四伊でロウンファ			
第11回 Oral corrective feedback 担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行第12回 Written corrective feedback ロニックエエが、日かり開始した単れの研究がら考えられる効果のな立動の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行約13回 Taplicit knowledge, explicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかり示えたい。 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。								
担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッショをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行第12回 Written corrective feedback PLI コッチェン・ ロアが 動態のに対する訂正フォードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行第12回 表リードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な筆記の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行れる試験を使う授業) 第13回 Implicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業業を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかるデキスト 特になし。 特になし。	İ			い。(大仂外教具による技業	、 /^/ノリウム /c.toグノリリに1.14/4 に少は3部でとけ ノ汉未 /			
をリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行第12回 Written corrective feedback Parameter for the program of th	!			T正フィードバックを行う	活動を実践したビデオをシェアして、その活動の日的や日標を説明し、 他の学生とのディフカッション			
第12回 Written corrective feedback Palaceters	!	1						
ロニルチェル、日が川が南級しい。単記の加速では、対する形は・ノイードバックで打つ治験で実践したにライをフェアして、ての活動の上的で日報で説明し、他の学生とのティスカツクコ。をリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な筆記の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行れる計論を伴う授業) 第13回 Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識の定着や自動化を目指した活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業業を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかなテキスト 特になし。 特になし。 特になし。	į			5-1 C G 7937K 2 7 G	(2)			
加る計論を伴う授業 第33回 Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識の定着や自動化を目指した活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッシ: シをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業を授業を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ 第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やディーチングにどのように生かしていくのかな 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。		担当の子主か、日力が撮影した	丰記の间達いに対する					
#13回 Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization 担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業案を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかなデキスト 特になし。 特になし。 特になし。	1		語習得の研究から考え	られる効果的な筆記の間違い	いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行わ			
担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動を実践したピデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのからテキスト 特になし。 特になし。 特になし。	1		lae evolicit knowleda	e & automatization				
ンをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向ま第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業案を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかな 持になし。 特になし。 特になし。	İ				た活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明! 他の学生とのディスカッショ			
第14回 Preparation for demonstration lesson 学んできたことを実践する最後の研究授業の授業案を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ 第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかな 持になし。 特になし。 デキスト購入方法 特になし。	i	!						
学んできたことを実践する最後の研究授業の授業案を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われ 第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかな テキスト デキスト 特になし。 特になし。 特になし。 特になし。								
第15回 Demonstration lesson & Conclusions 研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかる デキスト 特になし。 特になし。 特になし。					****			
研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのから		子んできたことを実践する最後	い明光授業の授業案を持	守ち命り、内谷について討	_我 をして、ぬ互いにフィートハックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる			
デキスト 特になし。 デキスト購入方法 特になし。 特になし。 特になし。		第15回 Demonstration I	esson & Conclusions					
デキスト 特になし。 デキスト購入方法 特になし。 特になし。 特になし。								
テキスト デキスト購入方法 特になし。 特になし。		研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかを !						
テキスト 特になし。 特になし。 特になし。 おになし。 けんこ	=+7k	サになし。						
テキスト順人力法 特になし。	テ ナ 人ト 							
特になし。	ニエフト曄1左汁	特になし。						
	ノイヘド隅八刀広							
参考文献		特になし。						
	参考文献							

į

[1. Presentations: 20%
成績評価の方法	2. Reflections: 20%
	3. Comments on reflections: 5%
	4. Analyses of classroom practices: 20%
	5. Comments on analyses: 5%
	6. Reflection paper: 30%
教員への連絡方法	メールを使用する。文面は英語で書くこと。
履修上の注意	授業は英語のみを用いて行う。
授業外学修情報(予習復習)	事前学習:次回の学習事項を授業で実践してそのシーンを録画する。次回の発表者以外は、そのビデオを説明と共に他の学生とシェアして、他の学生は、それに対するコメントをオン ラインに投稿する。
	事後学習:授業の振り返りを英語で書き投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。
Ļ	1回の授業に対して、合計約2時間の予習・復習を行うことが求められるので、1学期の授業外学修時間は合計30時間となる。
学生へのメッセージ	毎時間の予習、復習が大切です。

*# 英利口なな	English Communication I	FURT	Pruching Un Engli	ish Communication Skills I		
講義科目名称 英文科目名称	English Communication I English Communication I	副題	Brushing Op Engli	ISH COMMUNICATION SKIIIS I		
188 s# +k0 88		I X T V C	124 AL-86			
開講期間 前期		配当年 1・2	単位数 2単位	科目必選区分 必修選択		
担当教員		-				
スネイプ ニール / 未定		<u>.}</u>				
英語コミュニケーション	講義]				
添付ファイル		<u>.</u>				
	実務経験のある教員等による授業科目 □実務経験のある教員による授業科目 □実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等	7 1 1 1				
授業種類	授業で使用する言語 ロ日本語	- 				
	■英語 □その他] 				
	アクティブラーニング					
ļ	■アクティブラーニング要素を取り入れている	+ 1 - + 1 1 1 - + -	141	ontent they have prepared at home through interactive or multidirectional		
授業の内容 (概要)		ssions with teachers, whil		neets. Students learn through conducting group discussions in class.		
授業の目的	The purpose of this course is to discuss different topics in	n English. In addition, stu	dents will practice otl	her skills such as listening, reading and writing.		
到達目標	members, students will be able to practice their speaking		ool courses in English	h. In addition, through discussions among students and with faculty		
	第1回 Introduction The first week of the course will be Icebreakers and an or	verview of the course and	the textbook.			
	第2回 Live and Learn!					
	Tistening: for main ideas and details, stressed words, reductions, transitions and visualizing location Speaking: Asking for clarification, Using expressions of location, Describing map locations, Discussing personal views Critical Thinking: Analyzing and interpreting an image, Using a lecture introduction to predict content, Taking notes on a lecture: indentation, keywords, abbreviations, and symbols, Using a Venn diagram					
	Language Focus: Using stress, Using reductions, Expressing location, Asking for clarification, Using should and shouldn't Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
	第3回 Bright Lights, Big City Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, clues to relationships between people and visualizing directions Speaking: Expressing feelings, Starting and ending a phone conversation, Expressing frustration, Requesting and giving directions, Conducting research and giving a					
	presentation Critical Thinking: Predicting questions speakers will ask, Taking notes on numbers and statistics, Using transitions as cues for note-taking Language Focus: Using stress, Using reductions, Using vocabulary, Expressing frustration, Starting and ending phone conversations, Requesting and giving directions Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
	第4回 Money Talks!					
	Listening: Listening for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, for numbers, expressions of advice Speaking: Suggesting and recommending, Discussing managing money, entrepreneurs, and abilities, Asking for, giving, and refusing advice, Conducting research and giving a presentation Critical Transition Tables on the Property of Street Conducting Property of Street					
	Critical Thinking: Taking notes on a lecture, Outlining a lecture, Taking notes on a process Language Focus: Using stress, Using can versus can't, Using teens versus tens, Suggesting and recommending Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
	第5回 Nail That Job! Listening: for main ideas and details, stressed words, red					
	Speaking: Discussing jobs and careers, Apologizing and reconciling, Role-playing a job interview, Giving a short oral report, Conducting research and providing documentation Critical Thinking: Taking notes on cause and effect, Interpreting information in a table, Taking notes on statistics, Outlining a lecture, Speculating about hypothetical					
	situations, Using a matrix diagram, Discussing the changing roles of women Language Focus: Using stress, Using reductions, Using sequencing, Agreeing and disagreeing Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
	第6回 The Way We Live					
	Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, for stress in two- and three-word verbs Speaking: Asking for help and favors, Discussing numbers and percentages, Comparing lifestyles in different countries, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Interpreting a line graph, Taking notes on a lecture Language Focus: Using stress on phrasal verbs, Using reductions, numbers and percentages, Asking for help or a favor					
	Discussions are conducted among students and with teach					
	Listening: for main ideas and details, stressed words, red Speaking: Identifying the pros and cons, Using verbal ar			wing, Speaking from an outline, Conducting research and giving a		
授業計画	presentation Critical Thinking: Taking notes on similarities and diffe Language Focus: Using intonation in questions and requ			uage, Estimating the impact of tourism, Outlining a lecture		
	Discussions are conducted among students and with teach			nal discussions]		
	第8回 A Universal Language? Listening: for main ideas and details, stressed words, red	luctions, ransitions, lectur	subtopics and check	ing		
	Speaking: Giving praise and encouragement, Speaking from an outline, Expressing tentative opinions, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Discussing body language and communication worldwide, Outlining a lecture, Using spelling quizzes, word games, and puzzles Language Focus: Using stress, reductions, statements with rising intonation, Giving encouragement and praise, Guessing: being tentative Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
	第9回 Each to Their Own		ancount			
	Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, taking notes and to a podcast interview					
	Speaking: Expressing and reporting on likes and dislikes, Conducting research and giving a presentation, Giving an impromptu speech Critical Thinking: Planning a tour, Outlining the interview, Discussing options and reaching agreements Language Focus: Using stress, reductions, Expressing likes and dislikes, preferences Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]					
	第10回 Pushing Boundaries					
	Listening: for main ideas and details, stressed words, red Speaking: Signposting, from an outline, Giving a persua					
	Critical Thinking: Taking notes on specific information Language Focus: Using negative prefixes, Pronouncing	, Discussing applications -ed endings, Expressing i	of artificial intelligen nterest or surprise, U	ce and personal discoveries and achievements sing conditional sentences -if and unless		
	Discussions are conducted among students and with teach	icis. [Ciasses With Interact	ive or muiti-direction	iai uiscussiūlisi		

	第 1 1 回 Milestones and Occasions				
	Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, Digressing and returning to the topic Speaking: Speaking from an outline, Conducting research and giving a presentation about a celebration				
ļ	Speaking: Speaking from an outline, Conducting research and giving a presentation about a celebration Critical Thinking: Taking notes on wedding preferences, Outlining a lecture, Comparing different cultural celebrations				
<u>!</u>	Language Focus: Using stress in compound phrases, Offering congratulations and sympathy, Comparing and contrasting				
	Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]				
<u> </u> 	第12回 Further topics (1)				
İ	TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet.				
į	Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]				
	第13回 Further topics (2)				
ļ	TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet.				
ļ	Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]				
	第14回 Further topics (3)				
ļ	TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet.				
İ	Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]				
ļ }	第15回 Review				
ļ	Students have to summarize what they did in class and what they are particularly interested in in a report and present it. In addition, the content will be discussed in class. Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]				
! [Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]				
テキスト	New Interactions Listening and Speaking 3, McGraw Hill.				
テキスト購入方法	Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp				
参考文献	Students will be able to access any assignments through Google Classroom.				
成績評価の方法	Homework assignments 100%				
教員への連絡方法	email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp				
履修上の注意	Students are required to purchase the course book.				
Let all 641 NA 644 Let 441 A TOTAL CONTROL	Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance.				
授業外学修情報(予習復習)	Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class.				
学生へのメッセージ	Most of the classes given throughout the course are based on the course book Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students.				
L	I				

講義科目名称 英文科目名称	English Communication II English Communication II	副題	Brushing Up English Communication Skills II				
关文行日右 协	English Communication II	_					
開講期間		配当年	単位数 科目必選区分				
後期 担当教員		1 • 2	2単位 必修選択				
スネイプ ニール / 未定]					
英語コミュニケーション	講義	7					
添付ファイル]					
[実務経験のある教員等による授業科目	7					
	□実務経験のある教員による授業科目 □実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等	7 -1 -1 -1					
授業種類	授業で使用する言語 ロ日本語 ■英語	- - -					
	ロその他 アクティブラーニング						
授業の内容 (概要)	discussions, such as discussions among students and discu	ussions with teachers our understanding of	erstand the new learning content they have prepared at home through interactive or multidirectional , while using assignment sheets. Furthermore, by applying the concept to a wider range of language f English topics. Students learn through conducting group discussions in class. Discussions are ti-directional discussions.				
授業の目的	The purpose of this course is to discuss different topics in English. In addition, students will practice other skills such as listening, reading and writing.						
到達目標	By brushing up English skills, students will be better pre- members, students will be able to practice their speaking		te school courses in English. In addition, through discussions among students and with faculty				
	第1回 Introduction						
į	The first week of the course will be Icebreakers and an o	verview of the cour	se and the textbook.				
ļ	第2回 Rise to the Challenge! Listening: for stressed words, Comparing reduced and un	nreduced pronunciat	ion, making predictions, Pragmatic understanding of a presentation, Recognizing tone of voice				
	Speaking: Sharing perspectives on academic lecture styles, Using appropriate expressions to request and offer clarification, Discussing learning styles, Solving riddles and brainteasers, Giving a presentation on learning styles Critical Thinking: Using graphic organizers to brainstorm and predict presentation content, Predicting what a presenter will say next, Analyzing academic instruction, Discussing learning styles, Solving riddles and brainteasers						
	Language Focus: Stressed words, Reductions, Requesting and offering clarification Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
Î L		ns used to ask for co	nfirmation of understanding, stressed words, Outlining main ideas and supporting details in a				
	lecture, Pragmatic understanding of a lecture Speaking: Challenging excuses with expressions used to ask for confirmation of understanding, Sharing observations on cooperation and competition, Identifying figurative language and creating metaphors, Asking for confirmation of understanding, Giving a presentation on an endangered species Critical Thinking: Using graphic organizers to brainstorm and predict lecture content, Constructing an outline of main ideas and supporting details, Classifying animals in a food pyramid, Discussing the pros and cons of exploration Language Focus: Asking for confirmation of understanding, Stressed words, Asking for confirmation to challenge excuses, Analogies, metaphors, similes, and personification Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
	第4回 The Ties That Bind						
	Listening: for stressed words, Comparing reduced and unreduced pronunciation of h, Listening for data and details refuting straw man arguments, Pragmatic understanding of a lecture, Reviewing an article about healthy family communication Speaking: Sharing perspectives on sibling and family relationships, Paraphrasing and making generalizations, Comparing family relationships in different cultures, Discussing the hallmarks of healthy family communication, Giving a presentation on good parenting skills Critical Thinking: Using a graphic organizer to compare assumptions, Predicting straw man arguments, Constructing arguments to refute assumptions using expressions of contrast, Expanding on healthy family communication Language Focus: Stressed words, Reductions: reduced h, Expressing contrast, Generalizing Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
i !	第5回 Healthy Mind, Healthy Body						
	Listening: for main ideas, expressions used to make analogies, Identifying intonation patterns in questions and requests, Outlining a presentation and answering comprehension questions, Identifying context clues, Taking notes on ailments, remedies, and effects Speaking: Sharing prior knowledge about the heart, Discussing flu epidemics, Reviewing symptoms and using expressions of opinion to reach a diagnosis and give medical advice, Discussing home remedies and debating their effectiveness, Giving a presentation an alternative or complementary form of medicine/ therapy Critical Thinking: Using a graphic organizer to record analogies, Using a graphic organizer to build background knowledge, Reviewing symptoms to diagnose an ailment, Discussing the qualities of medical professionals, Debating the effectiveness of home remedies Language Focus: Analogies, Intonation in questions and requests, Expressing opinions Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]						
	Speaking: Sharing perspectives on astrology and horosco travel, Presenting a news report using the passive voice, Critical Thinking: Researching to build background kn and result, Analyzing the pros and cons of the privatizati Language Focus: Stress on phrasal verbs, Stressed word	opes, Sharing prior l Giving a presentatio owledge, Labeling d on of space travel ls, Pronouncing num	iagrams, Selecting relevant notes to give a summary, Using transitions to express reason, purpose, bers, Expressing reason, purpose, and result, Distinguishing between active and passive voice				
<u> </u>	Discussions are conducted among students and with teach	ners. [Classes with in	teractive or multi-directional discussions]				
	第7回 Dollars, Deeds, and Dreams	ent and disagraems	nt, taking notes on pro and con arguments and Making inferences				
授業計画	Speaking: Using expressions to disagree politely, Sharin and presenting ways to invest money, Examining a case s Critical Thinking: Evaluating the pros and cons of a der Venn diagram to compare banking schemes, Reaching a Language Focus: Agreeing and disagreeing	g prior knowledge a study to present deve velopment project, I consensus on the bes	bout the World Bank, Agreeing and disagreeing with views about the World Bank, Brainstorming elopment projects, Presenting a proposal for a development project requiring financial aid formulating challenging questions, Analyzing the pros and cons of World Bank practices, Using a tray to invest money, Analyzing data to propose development projects				
	Discussions are conducted among students and with teach 第8回 Standing Out From the Crowd	iers. [Classes with ir	neracuve or multi-directional discussions]				
	Listening: for modifiers of comparatives and superlative of voice to show likes and dislikes Speaking: Sharing views on people who have done rema doping should be prohibited in sport, Collaborating to cremarkable people and presenting the findings	arkable feats, Presen eate and present a sp	me expressions, Completing a timeline with chronological events, appropriate expressions and tone ting a biography using expressions of time, Sharing perspectives on cycling, Sharing views on why orts code of ethics, Discussing interests, Conducting a survey on people's opinions about				
	result, Choosing appropriate ways to express likes and dis-	slikes, pleasure and ves, Stressed words,	Expressing time and sequence, Expressions of like and dislike				

ľ

Imagine, Create, Succeed Listening: for signal words and information, Making inferences, Recognizing and taking notes on divulged information, Identifying main ideas in a lecture, Taking notes or Speaking: Sharing perspectives about art and creativity, Speculating on creative drive in the workplace, Interpreting and discussing modern art, Sharing ideas about motivation at work, school, and play, Brainstorming and presenting ways to become more creative, Giving a presentation on different types of corporate culture

Critical Thinking: Using a Venn diagram to compare artists, Speculating on factors that influence creativity at work, Using creativity to solve puzzles, Analyzing images to speculate on corporate culture, Matching descriptions of art styles to images Language Focus: Recognizing when information is being divulged conducted among students and with teachers [Classe 第10回 Social Behavio Listening: Identifying types of tag questions, stressed words, expressions introducing digressions and returns to the main topic, Recognizing digressions and their purpose in a lecture, Identifying and categorizing tag questions in a lecture, specific information in a lecture, Taking notes on an article about leadership Speaking: Sharing experiences about social groups, Reporting on digressions in a lecture, Sharing perspectives on group dynamics, Using tag questions in role-plays, Brainstorming and discussing leadership qualities, skills, and styles, Designing a questionnaire about the qualities of a successful leader and presenting the results Critical Thinking: Speculating about social behavior, Distinguishing between main points and digressions, Identifying and analyzing reasons for digressions, Analyzing group dynamics, Evaluating leadership skills and styles Language Focus: Tag questions, Stressed words, Grammar forms of tag questions

Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions] 第11回 It's a Crime! Listening: Identifying hopes and wishes, stressed words, Comparing reduced and unreduced pronunciation, Paraphrasing key points in a lecture, Making inferences Paraphrasing wishes and hopes, Taking notes and answering idea-connection questions Speaking: Making wishes and expressing hopes and dreams, Reviewing cases and discussing if punishments fit their crimes, Sharing points of view on the issue of legal insanity, Discussing cases and reasons for guilt and innocence, Acting out a mock trial, Giving a presentation on obsercrime and its prevention Critical Thinking: Interpreting quotes about hopes and wishes, Speculating about free will and predetermination, Paraphrasing ideas of a lecture, Determining whether punishments fit their crimes, Debating details of a case to reach a verdict Language Focus: Expressing hopes, wishes, and desires, Stressed words, Reductions tong students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions] 第12回 Further topics (1) TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional d 第13回 Further topics (2) TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or n 第14回 Further topics (3) TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet 第15回 Review Students have to summarize what they did in class and what they are particularly interested in in a report and present it. In addition, the content will be discussed in class Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions] New Interactions Listening and Speaking 4, McGraw Hill テキスト Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp テキスト購入方法 Students will be able to access any assignments through Google Classroom. 参考文献 Homework assignments 100% 成績評価の方法 email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp 教員への連絡方法 Students are required to purchase the course book 履修上の注意 Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance. 授業外学修情報(予習復習 Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class. Most of the classes given throughout the course are based on the course book Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students 学牛へのメッセージ